慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	稿本聊齋志異考勘記
Sub Title	Textual criticism of "Liao-chai chih-i"
Author	藤田, 祐賢(Fujita, Yuken)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1956
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.6, (1956. 12) ,p.16- 64
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00060001-0016

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

稿本聊齋志異考勘記

藤田祐賢

一

民國四十四年（一九五五年）九月、北京の文學古籍刊行社から、中國の小說の研究者にとつて誠に貴重な贈り物である二種の本が出版された。影印本の稿本聊齋志異と脂硯齋重評本石頭記とがそれである。就中、前者は、聊齋志異研究の根本資料という點で、年來專らこの小說を研究對象としている筆者に無上の喜びを與えてくれた。

この影印稿本の底本について、出版說明には、一九四八年に東北（滿洲）の西豐を解放した時、一貧農の家から發見したと誌している。これによると、志異原稿の出版は今度が最初ということになるが、事實はそうではない。一九三三年に滿洲國の袁金鎧によつて影印出版された[1]「選印聊齋志異原稿」の底本も同じく西豐にあつたものである。袁氏の弁言の方は、この稿本が蒲松齡の十世孫で當時西豐に居住した蒲文珊の所藏だと明記している。二つの影印本を照合すると、底本が全く同一であることが確認される。卽ち今度は、蒲文珊所藏本の二度目の出版である。勿論、その所收二百三十七篇という數量は、選印本所收二十四篇の遙かに及ばぬところで、その出版價値は比較にならぬ程大きい。ただその出版說明に袁氏選印本について一言も觸れてないのは、やはり當を缺いた扱い方と言うべきであろう。四分册からなるこの影印本の篇目は次表の通りであるが、その排列順は、底本に一部分の目錄しかないため、完全に分卷、次

第の原型を確定することができず、出版元で前後の文の連貫情況を按配して編訂し、その次第を確定する方法のないものは、北京大學圖書館所藏乾隆間鈔本と青柯亭刻本の目次を參照し、しかも基本的には原稿の本來の面目を保留すべく注意をはらつて編列した（出版說明）ものである。次表中、傍線のあるものは趙氏刊本に無い篇で、この稿本のみにみられるものはそのことを、またこの稿本以外にもみられるものはその所在する書名を略稱で、夫々附記しておく。略稱は、北京大學圖書館所藏乾隆間鈔本→北本、聊齋志異遺稿（段序本）→遺稿、聊齋志異拾遺（得月簃叢書本）→拾遺、聊齋志異逸篇（劉序本）→逸篇、とする。

◎北本と逸篇は筆者未見であるが影印稿本目錄によりこの兩本所收のものは一應註にその旨記した。

第一册（九十四丁・百八十八頁）

序（高珩題）
（註）殘缺。

聊齋志異序（唐夢賚題）

聊齋自誌

考城隍

耳中人

尸變

噴水

瞳人語

畫壁

山魈

咬鬼

捉狐

莜中怪

宅妖

王六郎

偷桃

種梨

勞山道士

長淸僧

蛇人

斫蟒

犬姦

（註）北本・拾遺・遺稿・逸篇所收。

雹神

狐嫁女

嬌娜

僧孽

妖術

野狗

三生

狐入瓶

鬼哭

（註）北本所收。

眞定女

焦螟

葉生

四十千

成仙

新郎

靈官

王蘭

鷹虎神

王成

青鳳

畫皮

賈兒

蛇癖

（註）北本・拾遺・遺稿・逸篇所收。

金世成

（註）北本拾遺・遺稿・逸篇所收。拾遺は、「金頭陀」と題す。

董生

齕石

廟鬼

陸判
嬰寧
聶小倩
義鼠
地震
海公子
丁前溪
海大魚
（註）逸篇所收。
張老相公
水莽草
造畜
鳳陽士人
耿十八
珠兒
小官人
胡四姐
祝翁
猪婆龍
（註）北本・拾遺・遺稿・逸篇所收。

劉海石
諭鬼
（註）北本・拾遺所收。
泥鬼
夢別
犬燈
番僧
狐妾
雷曹
賭符
阿霞
李司鑑
五鞍大夫
毛狐
翩翩
黑獸
餘德
楊千總
（註）北本・遺稿・逸篇所收。
瓜異
（註）北本・遺稿・逸篇所收。
梅青

羅刹海市
田七郎
產龍
（註）北本・遺稿所收。
保住
猪婆龍
（註）重出
公孫九娘
促織
柳秀才
水災
諸城謀甲
庫官
酆都御史
龍無目
（註）北本・遺稿・逸篇所收。
狐諧
雨錢
妾擊賊
驅怪
姉妹易嫁
續黃粱

龍取水
（註）北本・遺稿・逸篇・拾遺所收。
小獵犬
碁鬼
辛十四娘
白蓮教
雙燈
捉鬼射狐
（註）刊本は「捉狐射鬼」と題す。
又
（註）刊本は蹇償債と題す。
頭滾
鬼作筵
胡四相公
念秧
蛙曲
鼠戲
泥書生
土地夫人
（註）北本・拾遺・遺稿所收。拾遺は「女鬼」と題す。
濟南道人

第二冊（八十八丁・百七十六頁）

（註）刊本は「寒月芙蓉」と題す。

陽武侯

酒狂

趙城虎

蟷螂捕蛇

（註）北本・拾遺・遺稿所收。拾遺は「螳螂」と題す。

武枝

小人

（註）本題は書眉上にある。

秦生

第三册（百一丁・二百三頁）

鴉頭

酒蟲

木雕美人

（註）原稿に本題なし。

封三娘

狐夢

布客

農人

章阿端

餺飥媼

（註）北本・拾遺・遺稿所收。

金永年

花姑子

武孝廉

西湖主

孝子

獅子

閻王

土偶

長治女子

義犬

鄱陽神

伍秋月

蓮花公主

綠衣女

黎氏

荷花三娘子

罵鴨

柳氏子

上仙

侯靜山

錢流

郭生

金生色

彭海秋

堪輿

竇氏

梁彥

龍肉

魁星

（註）北本・拾遺・遺稿逸篇所收。

馬介甫

潞令

庫將軍

絳妃

（註）刊本では「花神」と題す。影印稿本の出版説明と目錄では、この一篇が北本のみにあり、刊本にはない逸篇としているが誤りである。

河間生

雲翠仙

跳神

鐵布衫法

大力將軍

白蓮教

（註）北本・拾遺・遺稿所收。

顏氏

杜翁

小謝

縊鬼

（註）北本・拾遺・遺稿所收。

吳門畫工

（註）北本・遺稿・逸篇所收。

林氏

胡大姑

細侯

狼三則

美人首

劉亮采

蕙芳

山神

蕭七

亂離二則

（註）北本・遺稿・逸篇所收。

豢蛇

雷公
（註）北本・拾遺・遺稿・逸篇所收。
菱角
餓鬼
考弊司
閻羅
（註）北本のみにみられ、他本にはない。通行本十四卷所收の同題のものとはちがう。
第四册（百十一丁・二百三十二頁）
（註）目錄のあるのはこの册のみ。
雲蘿公主
（註）殘缺。
鳥語
天宮
喬女
蛤
（註）北本・遺稿・逸篇所收。
劉夫人
陵縣狐
（註）北本・遺稿・逸篇所收。
王貨郎
罷龍
（註）北本・逸篇所收。
眞生
布商
彭二挥
何仙
牛同人
（註）殘缺。この稿本のみにあつて、他本にはない。
神女
湘裙
三生
長亭
席方平
素秋
賈奉雉
臙脂
阿繊
瑞雲
仇大娘
曹操塚
龍飛相公
珊瑚
五通
又
申氏
恒娘
葛巾
黃英
書痴
齊天大聖
青蛙神
又
（註）北本の「青蛙神」附則として見られ、他本にはない。
任秀
馮木匠
晚霞
白秋練

この稿本を最初から最後まで通覽した人は、その中に數種の筆跡が混入しているような印象をうけて、全篇が蒲松齡一人の手になることを承認するのに、おそらく躊躇することと思う。出版說明の末尾に、蒲松齡の畫像[2]の題字と稿本の筆跡を對照して、後者が確かに松齡の手稿であることが證明されるとしているが、事實はそう簡單に斷定してしまうことはできない。現に、袁氏の選印本によつて「聊齋志異原稿之研究」（大陸雜誌第十一卷第五期―一九五五年九月）を發表した臺灣大學の趙景樵氏は、選印本所收二十四篇の筆跡を明らかに二種に分けている。寫眞(一)(二)がその二種にあたる筆跡である。しかし二百三十七篇の筆跡を詳細にみてゆくと、その外、寫眞(三)―

選印本所收「仇大娘」はこの筆跡であるが、趙氏は㈡の部に入れている—㈣㈤㈥が一應區別できる。以上のうち㈢㈤㈥が、字體上の相違はあるが同一人の執筆であることは一見してわかるし、㈡㈢㈤は慶應義塾大學中國文學研究室所藏の「蒲氏族譜」[3]、「聊齋草」[4]、「詩賦抄」[5]中に見られる筆跡である。（寫眞㈦㈧㈨㈩㈪參照。㈦は㈡と、㈧㈨は㈢と、㈩㈪は㈤と、夫々同一筆跡。）前記畫像の題字（寫眞㈫）は㈡の筆跡と同一である。これらの筆跡は、稿本中の松齡五十六歲時の事件を記述した「水災」が㈡の筆跡であることと前記慶大所藏の諸本が松齡の老年時（六十代から七十四歲までの間）のそれであることから、かなり老年時の筆跡と斷定できる。㈠と㈣とは夫々㈡㈢㈤とは異なるようであるが、筆法を仔細に對照してみると、㈠と㈡㈢㈤等との間には共通した書き癖があるとも言える。ただ㈣だけはどうみても別人の筆跡のように見える。しかし同一人の筆跡でも全く別人の筆跡と思われるものを殘している例のあるのを嘗つて西川寧先生よりうかがつているので、輕率な斷定は避けたいと思う。もしかすると㈣は松齡若年時の筆跡かもしれない。以上のような筆跡の問題の外に、この稿本中では㈠㈣の筆跡の篇に特に多く見られる字句改削の文字が全部㈡及び㈤の筆跡であること、㈡の筆跡の篇が數量の上で最も多いうえに、最も少ない㈤の筆跡—松齡七十歲前後の筆跡—の篇と共に、改削の跡が極めて少なく、しかも執筆中に誤寫して訂正したり、補入したりした字が見られること、㈥の筆跡の篇が他の篇に比較してかなり急いで筆寫したものであること、㈡の筆跡の「猪婆龍」が重複して入つていること、「小人」「木彫美人」のように、無題のものがあること、王漁洋の評文[6]が全部㈡の筆跡で書かれていること、「念秧」「頭滾」二篇のような、㈡の筆跡と㈣の筆跡との混入—「念秧」は㈡のものと㈣のものでは別丁になつており、「頭滾」では同丁に見られるが—みられること等が特に注意されるが、これらのことを併せ考察すると、この稿本は、おそらく松齡が晩年に何らかの事情で、既に書いてあつたものを改削したり筆寫し直したりしたものであろう。すなはち、この稿本は著者の再整理後のものと推定される。

この稿本に接して唯一つ遺憾に思われるのは、それが完全なものでなく、現存の篇數に略々近いものが亡佚していて、その全貌に接することのできない點である。その亡佚の部分が、あるいはソ連に在る原稿と稱されているものかもしれないが[7]、それに關する資料が見られないため、現在までのところ何も判明していない。

李能醜醉詣坐下自言能之持牒
姑以鮮嫗接耳因之不甚為意持牒
甚[illegible]果[illegible]虎便須拘[illegible]獵之
之隸集諸獵人日夜伏山谷冀得

(一)

禹城韓公甫自言與邑人彭二掙
行但聞號救甚急細聽則在被裏
得隨欲出之則囊口縫紉甚密以
入亦莊不自知蓋其家有狐為祟

(二)

長山王公子瑞亭能以乩卜乩神自稱何
云每降輒與人論文作詩李太史質君
戎賴何仙力居多焉因之文學士多皈
言休咎案未歲朱文宗案臨濟南試

(三)

牒之議直來定適家公以家中急務
乾折脛骨不可療有牛醫至公家見
療養需以歲月萬一得痊得直與公
如所請後數月牛醫[illegible]

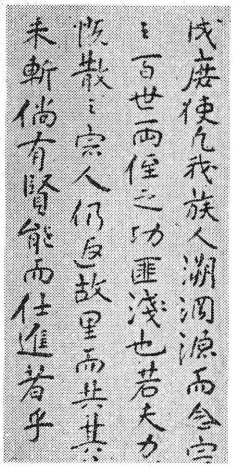
(四)

飲而無所得酒忽憶所藏啓封嗅
瑟持嘗妻芳細辣生笑曰快飲而
弄斟妻覆其瓶滿屋流溢生伏地
為備棺木行入殮矣次夜忽有美人

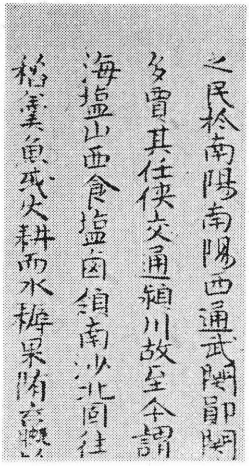
(五)

數載之外即有村落迷同行入一庭院
色皎然不必命燭小臺石榻可坐士人
不適於骸迷中頗累贅苦歸有代步
酒果麗人酬曰萬鳳久乖圓在今夕濁

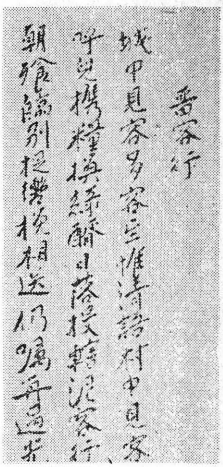
(六)



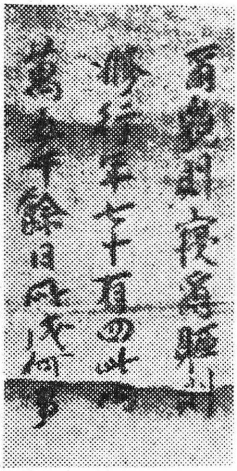
(九) 蒲氏族譜



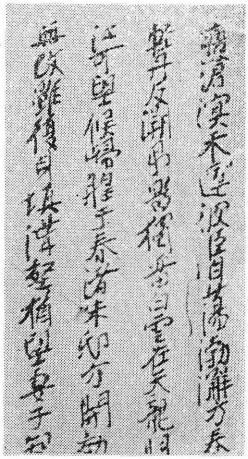
(八) 詩賦抄



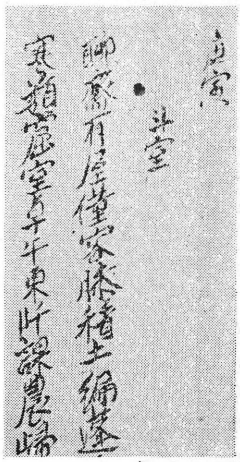
(七) 聊齋草



(十二) 康熙五十二年
松齡七十四歲筆
（影印本挿入寫真より引伸）



(十一) 詩賦抄



(十) 聊齋草
（康熙四十九年
松齡七十一歲）

（註）

①この本については、柳田泉「聊齋志異の原稿」（書物展望第四卷第九號）に詳しく、特に今刊本にない篇の讀み下し文が載せられている。

②蒲松齡の畫像には、康熙癸巳七十四歲時に朱湘鱗によつて畫かれたものと、それを臨模したものとがある。前者は溜川蒲家莊の人世後裔の家にあつたが、現在は山東省文學藝術界聯合會の手に渡つていて、影印志異稿本中にその寫眞がある。後者は溜川城內蒲氏家廟中にあり、その寫眞が劉階平著「蒲留仙遺著攷略與志異異稿」中にある。

③松齡四十九歲時（康熙二十七年）の自訂本。始祖より第十三代迄に及ぶもので、蒲氏直系族に傳えられていた。

④松齡六十三歲より七十一歲の間の編年詩稿。

⑤古來の有名なる賦を淸書したもの。

⑥書眉上にあるものは、重裝の時—何時であるかは不明—にその一部が誤つて切斷されてしまつたために、不明の箇處が多い。雷賈、阿霞、續黃粱、小獵犬、辛十四娘、趙城虎の書眉には、通行本に見られないものがあるが、右の事情で惜くも全文の意味が不明である。

⑦これについては國學論文索引に「聊齋原稿在蘇俄」（國聞週報十一卷五十期）の資料名が見えるが未見である。柴田天馬氏におたずねした結果、昭和元年頃のハルビン發行の漢字新聞に、志異原稿の一半がハバロスクのソ連圖書館に四十萬圓で購入された記事がのつたことを知つた。

二

聊齋志異の最初の刊行者趙起杲は、鄭荔鄉が山東淄川の蒲家で入手した志異原稿を見て（趙氏辯言）、刻本は悉くその原稿に據つた（刻聊齋志異例言）と自述しているが、現存の稿本と趙本との內容を精細に對照してみると、その間に極めて注目すべき相違のあることが判明する。筆者が行つた對照の結果を次に對校表にして相違點を明らかにしたい。對校の趙本には、青柯亭本が見られぬため、道光二十二年刊但明倫新評本（以下但本と略稱する）と鐵城廣百宋齋校正本（通稱同文本）とを使用した。また通行本にない逸篇も、前記の段序本（遺稿）と得月簃叢書本（拾遺）とに據つて對校した結果を記載した。なお、但本と同文本の間、あるいは遺稿と拾遺の間には相違

がなくて稿本と違う箇處の説明の場合は、煩雑をさけて書名の記載を略し、一本のみ違う場合に、その書名を擧げておく。表中〔異〕とあるのは「異史氏曰」、〔王〕とあるのは「王阮亭云」を指す。

第一冊

序（高珩題）

。衰益人瘡亦安能知之　脫能

。妖邪不宜黜乎　黜作除

聊齋志異序（唐夢賚題）

。謂馬瘇背　瘇作腫

。夫人則亦誰持之　脫之

。余謂事無論常怪　脫論

。豹岩樵史　岩作巖

聊齋自誌

。情類黃州　類作同

。果是吾前身耶　身作生

。康熙己未春日　刊本此後有柳泉居士題五字

考城隍

。予姊丈之祖　丈作夫

。見吏人持牒　脫人

。公力病乘馬從去　病作疾

。共籌躇間　籌作躊

。無燭無燈夜自明　燭作月

耳中人

。譚晉玄邑諸生也　玄作元

尸變

。四人偕來　偕作皆

。翁以灵所室寂　灵作靈

。未幾女果來吹之　脫來

。比其離幃　幃作幛

。客且犇且號　犇作奔

噴水

。冠一髻長二尺　尺作寸

。踈急作鶴步　踈作竦又步作狀

。面肥瘇如生　瘇作腫

。皮內盡清水　盡作皆

。〔王〕恐屬傳聞之訛　同文本訛作誤

瞳人語

。纔一拭視而車馬已渺　脫而

。萬緣俱淨　淨作靜

。忽聞左目中小語如蠅　同文本左誤右

。右目中應云　右誤左

。久之廼返　廼作乃

。靜匿房中以俟之　脫以俟之

。黑睛熒熒纔如劈椒　劈作破

。左目旋螺如故　左作右

。〔異〕偕二友於途　途後有中

。〔異〕至于眯目失明　于作於

畫壁

。殿宇禪舍俱不甚弘廠　弘廠作宏敞

。櫻唇欲動　唇作口

。回顧則垂髫兒驟然竟去　顧作視

。朱次且不敢前　脫朱

。囑勿咳　囑前有朱

。女伴共覺之　脫共

。恐人不懽　懽作歡

。吉莫靴鏗鏗甚厲　同文本靴作韡

。女驚起與生竊窺　生作朱

。俄聞靴聲　同文本靴作韡

。貧道何能解　貧道作老僧

。孟心駴嘆而無主　駴作駭又脫嘆
。〔異〕　幻由人作　作作生
。〔異〕　老婆心切　此句作老僧婆心切
山魈
。有靴聲鏗々然　同文本靴作韡
捉狐
。黃毛而碧嘴　毛作尾
。翁亟呼夫人　亟作急
。粗于椀　于作如
莜中怪
。秋間蕎熟　同文本蕎作莜
。有人踐蕎根　同文本蕎作莜
宅妖
。又見壁間倚白梃　脫間
。厦有春橙　但本橙作橙同文本作凳
王六郎
。飲則酹地祝云　云作曰
。以爲常　此句作率以爲常
。既而中夜不獲一魚　中作終
。如不棄要當以爲長耳　長作常
。方共一夕何言屢也　夕作息
。沈醉溺死數年于之　于作於
。皆僕之暗驅　驅作毆
。遂與暢飲因問代者何人　脫因
。意良不忍思欲犇救　犇作奔
。君正直爲神甚慰人心　甚作足
。但任微職不便會面　任作在
。〔異〕　傘蓋不張　同文本傘作繖
偸桃
。父又强鳴拍之　鳴作喝
。一々拾置笥中而閤之　閤訂作闔
。老夫止此兒　此後有一
種梨
。俄成樹枝葉扶蘇　蘇作疎
。頃刻向盡　向作而
勞山道士
。素髮垂領　同文本領作頸
長淸僧
。年七十餘猶健　七誤八
。公子託以病倦悉却絕之　却作謝
。弟子數人見貴客至　脫數人
。見其人嘿然誠實　嘿作默
。〔異〕　余于僧不異之　余作予
。〔異〕　而能絕人以逃世也　脫世
。〔異〕　蘭麝熏心　熏作生
蛇人
。其大者呼之大靑小曰二靑　小作小者
。小侶而所荐耶　荐作薦
。得勿欲別小靑耶　勿作母
。小靑粗于兒臂　于作於
。深山不乏食飲　脫飲
。〔異〕　獨怪儼然而人也者　脫而
。〔異〕　且怒而仇焉者　仇作讎
斫蟒
。斫蛇首　蛇訂蟒
。頭雖已沒幸肩際不能下　幸作而
犬姦
。一日夫至　拾遺至作歸
。犬突入登榻嚙賈人竟死　拾遺榻作床又
賈人作夫
。後里舍稍聞之　拾遺脫後又里作鄰
。婦不肯伏收之命牽犬來　拾遺脫收之遺
稿牽作縛
。婦始無詞　拾遺詞作辭
。使兩役解部院一解人而一解犬　拾遺此
句作使兩役解婦與犬赴省。

。乃牽聚令交所止　拾遺此句作乃牽聚一處令交遺稿只牽作率

。後人犬俱寸磔以死　拾遺人犬作婦與犬

。天地之大眞無所不有矣　拾遺眞作固

。獨一婦也乎哉　拾遺脫也

。〔異〕　古所交訊約于桑中　訊作譏拾遺于作於

。〔異〕　人且不齒　拾遺且作所

。〔異〕　浪思苟合之懽　懽作歡

。〔異〕　溫柔鄉裏　拾遺裏作裡

。〔異〕　銳錐處于皮囊　拾遺處作出又于作於

。〔異〕　一縱股而脫頴　拾遺股作骨

。〔異〕　留情結于鏃項　拾遺此句作利鏃沒於寢石

。〔異〕　妬殘兇殺　拾遺妬作妒

。〔異〕　人非獸而實獸　拾遺實作爲

。〔異〕　奸穢淫腥內不食于豺虎　奸拾遺作姦遺稿作汚又拾遺于作於

。〔異〕　人姦殺則擬女以剮　拾遺人作女姦作奸

雹神

。此先生同鄉不之識耶　耶作也

。裁高于庭樹又起高于樓閣　此二于作於

。章丘　丘作邱

狐嫁女

。惟啣山一綫耳　同文本啣作銜但本與稿本同作

。陰內袖中　同文本內作納

。蹙然而寢　蹙作頻同文本寢作寐

。任于肥丘　于作於

嬌娜

。即屈降臨　屈作乞

。少年細詰行踪　同文本踪作蹤

。誰作曹丘者　丘作邱

。當晚談笑甚懽　同文本懽作歡

。即有僮子熾炭於室　同文本僮作童

。韶帽襪履　韶訂貂

。乃呼酒荐饌　荐作進

。公子呈課業　同文本業作藝

。問之笑云　云作曰

。紅妝艷絕　妝但本作粧同文本作莊

。公子最惠　惠作慧

。過日成咏　咏作誦

。眠食都廢　都作俱

。而貪近嬌姿　而作生

。再一周習々作痒　脫一

。公子翼日自內出　公子翼日之前

。近單公子解訟歸　解訟作訟解

。公子勸還鄉閭　閭作里

。于是一門團圞　于作於

僧孽

。欲脫此厄須其自懺　此作其又其作是

妖術

。力能持高壺　高作二

。崇禎間　禎誤正

。閣戶挑燈　閣訂闔

。計不如出而鬬之　鬬作鬬

。鬼則彎矣　矣作矢

。欲擊之則又關矣　關作彎

。矢貫于壁　于作於

。欲致人于死　于作於

。〔異〕　不爽于生死者幾人　于作於

野狗

。俄頃蹶然盡倒　蹶作忽又盡作而

。伏嚙人首徧吸其腦　吸作及

。于血中得二齒　于作於

三生

。六十二歲而沒　脫歲

。濁如醪

。暗疑迷魂湯得勿此耶　勿作毋

。逾四五年　但本逾誤逾

。見鞭則懼而逸　逸作逃

。痛極而竄于野　于作於

。又恐罪其規避　脫罪

。笞數百　此句作笞之數百

。因蒲伏自剖　蒲作匍

焦螟

。董侍讀嘿庵　嘿作默

。啣恨綦深　啣作銜

。再若遷延法不汝宥　再若作若再

葉生

。公子名再昌　再作在

。尙不能文然絕惠　惠作慧

。生以生平擬擧子業　脫子

。使天下人知半生淪落非戰之罪也　脫也

。且士得一人知已可無憾　脫已

。竟領鄉荐　荐作薦

。三四年不覯　覯作覯

。憮然簪悵　簪作惆

。見靈柩儼然撲地而滅　脫儼然

。衣冠履舄如蛻委焉　脫焉

。〔異〕　嘔學士之心肝　嘔作吐

。〔異〕　行踪落々　同文本踪作蹤

。〔異〕　搔頭自愛　頭作首

。〔異〕　淪落如葉生其人者亦復不少　脫其人

成仙

。周子生子產後暴卒繼聘王氏　子訂妻

。一日王氏弟來省姊　脫來

。況今日官宰半强寇不操矛盾弧者耶　不前有有

。家人悉慫臾之　臾作恿

。院台怒杖斃監者　同文本斃作獘

。遣人踪迹之　同文本踪作蹤但本同文本共迹作跡

。周喜把臂　喜前有大

。已而大悟　悟作寤

。何自己面目覯面而不之識　脫覯面

。然塵俗念切無留連　留作流

。舐窗以窺　同文本舐作舔

。周驚怛欲絕　怛作懼

。于今官捕未獲　于作於

。周如夢醒　如作亦

新郎

。爲德州宰　宰作牧

。初村人有爲子娶婦　婦後有者

。婦父益啣之訟于庭　啣作銜又于作於

靈官

。適同所好遂爲玄友　玄作元

。每至郊祭時　時作日

。郊期至諸神淸穢　脫諸神

。兼以致祝　祝作囑

。大刼將來　刼作刼

王蘭

。但憑所之罔不如意　罔作無

。俏無一人　俏作悄

。我欲現身　現身作現我形

。于是卽日趣裝　于作於

。張瀉囊授之　脫囊

。斃于途　同文本于作於

。聚飲于烟墓　于作於

鷹虎神

。拔關而出　出作去

王成

。惟剩破屋數間　同文本剩作賸

。因把鈔籌躕　籌躕作躊躇

。見負敗絮菜色黯焉　負敗絮作敝衣蓬首

。三日外請復相見　外作後

。糴粟麥各石　各石作各一石

。貝勒府購致甚急價頓昂　此句作京中巨室購者頗多價甚昂

。前一日方購足　此句作前一日貨葛雲集價頓貶

。後來者並皆失望　脫並

。計食耗煩多　煩作繁

。于主人何尤　于作於

。脫鬬而死當厚爾償　爾作而

。生俛思良久　俛作俯

青鳳

。第宅弘濶　弘作宏

。頗惠所聞見輒記不忘　惠作慧

。輒俛其首　俛作俯

。但叔閨訓嚴　脫叔

。欲與爲懽　懽作歡

。俛首倚床　俛作俯

。罪在小生於青鳳何與　於作與

。携家口而遷焉居逾年甚適　脫居逾年又甚前有意

。他事不敢預聞　預作與

。莫嘅然解贈　嘅作慨

畫皮

。現在君所　所作舍

。孽魅償我拂子來　孽作業

。乞活于我　于作於

。在腔中突々猶躍　脫中

。熱氣騰蒸如烟然　然作焉

。〔黑〕但愚而迷者不寤耳　寤作悟

賈兒

。自是身忽若有亡　忽作忽々

。日效朽者　朽作巧

。詐作欲搜狀　搜訂溲

蛇癖

。呂奉寧　拾遺寧作凝

。先噬其頭　遺稿噬作嚙拾遺頭作首

金世成

。犬羊遺穢于前　拾遺于作於

。愚民婦異其所爲　拾遺婦作婦女

。金詞使食矢無敢違者　拾遺脫使又詞作呵

。〔異〕金道人　拾遺道人作頭陀

。〔異〕至啗穢極矣　拾遺啗作食

。〔異〕南令公　拾遺脫令

。〔異〕然學宮圯而煩妖道　拾遺煩妖道作食穢之

。〔異〕士大夫之羞矣　拾遺矣作耳

董生

。未顧王生九思及董余閱人多矣董後有曰

。女又笑曰君悞矣尾於何有　君悞矣在尾於何有後

。故來相見就　此句作故勉來相就

廟鬼

。汝何敢擾　汝作女

。于是病若失　于作於

陸判

。朱起曰意吾殆將死矣　意訂噫

。自于靴中出白刃　于作於同文本靴作鞾

。按夫人項着力如切腐狀　腐作爪
。殺一婢于床下　于作於
。朱歸求計于陸　于作於
。陸判荐我督案務　荐作薦
。予亦惠　惠作慧
嬰寧
。早孤絕惠　惠作慧
。生注目不疑　疑訂移
。嘿然不答　嘿作默
。徒步于野　于作於
。不然拚以重賂　同文本拚作拌
。探訪既窮並無踪緒　但本踪緒作踪跡同
文本作蹤跡
。媼聾聵不聞　聵作憒
。探入室中裀籍几榻罔不潔澤　中作內又
裀作茵
。匆遽遂忘姓氏　同文本匆作悤
。不遑他瞬　遑作暇
。細草鋪毡　同文本毡作氈
。竟無踪兆　同文本踪作蹤
。秦家姑去世後　脫世
。咤嘆而返　同文本嘆作歎
。于荒煙錯楚中　于作於
聶小倩
。似絕行踪　同文本踪作蹤
。媼笑曰齊地不言　齊作背
。小妖婢俏來無迹啊　俏作悄
。妾墮玄海求岸不得　玄作元
。强携卧具來　携作移
。于是益厚重燕　于作於
。非此道中人也　脫此
。懽喜謝曰　懽作歡
。母戒勿言　勿作毋
。入房穿榻似熟居者　榻作戶
。又坐嘿然　嘿作默
。二更向盡不自去　自作言
。恐于子不利　于作於
義鼠
。啣之而去　啣作銜
地震
。鴨鳴犬吠　鴨作雞
。〔異〕　狼啣其子　啣作銜
海公子
。花四時不凋　凋誤彫
。反復留連　留作流
。艱于步履　于作於
張老相公
。張先渡江　先作老
。將以仇讐　仇作讐
。誰後能相仇哉　仇作讐
水葬草
。此鬼犹多云　犹作尤
。生俏然忽入　俏作悄
。甚愴于懷　于作於
。今已生于郡城賣漿者之家　于作於
。以三娘骸骨與生合葬焉　骸作體
造畜
。俗名曰打絮巴　同文本巴作把
。兼祝勿令飲噉　祝作囑
鳳陽士人
。女唯嘿坐　嘿作默
。甫能消此胸中惡　胸作心
。三郎揮姊仆地　仆作撲
。幸不爲巨石所斃　同文本斃作獘
耿十八
。妻嘿不語　嘿作默

。兩人攀指　攀作板

珠兒

。容質秀美　質作貌

。忽仆地悶絕　仆作撲

。頗不謂妬醜　妬作妒

小官人

。竟造牀下　竟作徑

胡四姐

。不知如何顛倒　此句作不知顛倒何似

。惑之罔不斃者　同文本斃作獘

。不憶引線人矣　同文本線作綫

。乃徑去　徑作逕

。與君爲懽　懽作歡

。懽洽異常　懽作歡

。以鍼刺脬作空　鍼作針又空作孔

。旗橫地上　橫作倒

祝翁

。拚不復返　同文本作拌

。媼云如此　同文本云作曰

猪婆龍

。貨其肉於陳柯　拾遺陳柯後有兩家

。此二姓　遺稿脫此

。一客自江右來　拾遺右作西

。佔舟傾沈　拾遺傾作盡

第二册

劉海石

。又內邑中倪氏女　同文本內作納

。我師立願弘　願弘作宏願

諭鬼

。邑中獲大寇數十名　寇作盜

。有某甲正遭困厄　無甲

。甲以狀告公　甲作某

。題壁示云　壁作壁上又云作曰

。致嬰雷霆之怒　嬰作攖

。管轄由人　由作惟

。自此鬼患遂絕淵亦尋乾　無此句

泥鬼

。胆卽最豪　卽作氣

。何故掘我睛　掘作抉

夢別

。逡巡倒行而入　行而入作走入

犬燈

。懼罪展轉無策　但本懼誤懽

狐妾

。詰其行踪　同文本踪作蹤

。女凡事能先知之　脫之

。乞于上官　于作於

。指僅于難　于作於

雷曹

。于是士大夫益賢樂　于作於

。于是去讀而賈　于作於

。欲得食耶　耶前有也

。細視星掛天上　掛作嵌

。如老蓮實之在蓬也　脫老又脫也

賭符

。嵩事樗蒲　嵩作專又蒲作蒲

。精神慘澹　澹作淡

。我爲汝覆之　覆作復

。頃刻盡覆　覆作復

。〔異〕　手握多張　同文本張誤章

。〔異〕　忘餐廢寢　餐作飡

。〔異〕　始玄夜以方歸　玄作元

。〔異〕　龔珠還於合浦　珠還作還珠

。〔異〕　羣指無袴之公　指作推

阿霞

。閭戶欲寢　閭但本作閤同文本作闔

。又慮妻妬　妬作妒
。志既決　既作遂
。並無踪緒　同文本踪作蹤
。啓幛紗　幛作障
。景俛首帖耳　俛作俯
。〔異〕　卒之卵覆而鳥亦飛　卵作巢
李司鑑
。地方報廣平行永年查審　此句作地方報
　官上憲行縣查審
。奪一屠刀　奪誤携
。奸姪婦女　奸姪作姦淫
。已奉兪旨　兪作喻
。邸抄　作見邸抄
五殺大夫
。得數羊皮護躰　脫羊
◎文末所記「畢載積先生志」刊本脫
之　毛狐
。戲挑之婦亦微納　納作笑
。欲與野合笑曰　脫笑
。又疑其踪跡無據　同文本踪跡作蹤蹟
。問所乞或勿忘耶　勿作又

。白金二鋌　鋌作錠
。固便既至其村　固作因
。妝女出閣　閣作閣
。蓮舡盈尺　舡作船
翩々
。父母俱蚤世　蚤作早
。愛子浮若己出　子浮初作羅後改子浮刊
　本作羅
。會有金陵娼　同文本娼作倡
。無何廣創潰臭　廣作瘡又臭作臭
。而出丐於市　而前有逐
。漸至卯界　卯作汾
。又開幛拂褥　同文本幛作障
。酹酢間　酹作酬
。極惠美　惠作慧
。無憂至臺閣　至前有不誤也
。皆當喜懽　懽作歡
。意侄已死　侄作姪
。各視所衣悉蕉葉　悉蕉葉作悉芭蕉葉
。黃葉滿逕　逕作徑
黑獸
。有虎啣物來　啣作銜

。虎立斃　同文本斃作獘
。〔異〕　而志之　同文本志作誌
余德
。昂之歸語妻　昂作異
。一水晶瓶　同文本瓶作餅
。飛落尹衣　衣作身
。惹袖沾衿　衿作襟
。爭交罐　罐作懽
。燭泪堆擲青堦下　泪作淚
。魚游如故　游作遊
。索玩者紛錯於門　同文本紛錯作紛紛
楊千總
。籐簪綰髻子　遺稿作籐綰髻簪子
。便掖汚地　掖作液
瓜異
。大如椀　遺稿椀作碗
青梅
。梅亦善候何能以目聽　脫何
。生據石啗糠粥　同文本糠作穅
。生掩其跡　同文本跡作蹟
。如能啜糠覈也　同文本糠作穅
。女俛首久之　俛作俯

。天必祐之　祐作佑
。厭糖粃不爲苦　厭作饜同文本糠作穅
。未幾媼又卒　又作亦
。媼于是導李來　于作於
。肩輿停駐　肩作香
。因道行踪　同文本踪作蹤
。女俛首徘徊　俛作俯
。因謀涓吉合卺　涓作擇
羅刹海市
。馬驥　驥作駿
。于是雞鳴而興　于作於
。無異丹砂　無後有以
。荐諸國王　荐作薦
。交章荐焉　荐作薦
。水雲幌漾之中　幌作晃
。授以水精之研　研作硯
。女亦嘆曰　嘆作歎
。啣報之誠　啣作銜
田七郎
。夢一人告之曰　脫之
。言詞朴質　朴作樸
。妻淹忽以死　淹作奄
。又視敗革　又作入
。賀見七郎朴陋　朴作樸
。又以百金賂仇主　仇作讎
。百年無灾患　灾作災
。見武公子勿謝也　脫武
。賀從煩多　煩作繁
。武驚起七郎亦起　起誤之
。灾祥數耳　灾作災
。一李應最拗拙　拙作掘
。當夜嘿然　嘿作默
。疑必此人　必後有係
。善言絕令去　絕作遣
。恐侄暴怒致禍　侄作姪
。宰見武叔垂斃　同文本斃作獘
。而七郎更不一弔問　脫一
。武取而厚葬　葬後有之
。〔異〕　使荊卿能爾　卿作軻
產龍
。壬戌間　拾遺脫此三字
。未幾胞墮　拾遺墮作下
保住
。住穿行樹秒如鳥　秒訂杪
公孫九娘
。約數十百家　脫十
。甥女迎門啜泣生亦泣　脫生亦泣
。女俛首無語　俛作俯
。月啣半規　啣作銜
。生撝謝而退　謝作謙
。夫人作大懽喜　懽作歡
。株乃導去　株訂朱
。乃口占兩絕云　脫口
。嘆恨而返　嘆作歎
。但見墳兆萬接　接作宅
。再逼近之　逼作復
。擧袖自幛　幛作障
。則煙然滅矣　煙作湮
。〔異〕　孝子忠臣　孝子忠臣作忠臣孝子
促織
。片紙拋落拾視之　脫拾
。似尋針芥　針作鍼
。絕無踪响　同文本踪作蹤
。斯須就斃　同文本斃作獘
。大罵曰　罵作驚
。相對嘿然　嘿作默

。夫妻心稍慰但蟋蟀籠虛顧之則氣斷聲吞亦不敢復究兒　但以下十八字作但見神氣癡木奄奄思睡成顧蟋蟀籠虛則氣斷聲吞亦不復以兒爲念

。不如拚博一笑　拚作拌

。又囑學使俾入邑庠由此以善養虫名屢得撫軍殊寵　入以下十六字作後歲余成予精神復舊自言身化促織輕捷善鬬今始甦耳撫軍亦厚賚成

。〔異〕　天子偶用一物未必不過此已忘而奉行者即爲定例加之官貪吏虐民日□婦賣兒更無休止故天子一跬步皆關民命不可忽也獨是成氏子…　刊本無此五十一字

庫官

。二萬三千五伯金　伯作百

鄭都御史

。邑宰即以新者易之　以作備

狐諧

。無不仰給于狐　于作於

。萬白于狐　于作於

。賢哉孫子　脫哉

。見群鼠出于床下　于作於又床作牀

。狐巢于此　于作於

。倘小有迕犯　此句作倘有小迕犯

。座上設一榻　上誤下

。此物生平未曾得聞　曾作嘗

。騾生駒駒　脫一駒

。妓者出門訪情人　者作女

。狐早謂曰　謂作詣

。預白于家人　于作於

。萬復事于濟　于作於

雨錢

。遂與評駁今古　今古作古今

。粲于牙齒　于作於

妾擊賊

。踰垣入　垣作牆

。妾拄杖于地　于作於

。悔向之迷于物色　于作於

。〔異〕　捍患禦灾　灾作災

騙怪

。至則中途宴饌　途作庭

。主人輒言無何也　何誤他

。言話之間　言話作話言

。園構造頗佳勝　脫勝

。撤肴器　但本肴作骰同文本作殽

。窗外皎月入室侵床　床作牀

。伏餂器中剩肴　同文本剩作賸

。〔異〕　黃貍黑貍得竄者雄　雄誤雌

姊妹易嫁

。郎留其家教之讀　同文本教之讀作教讀之

。意形于言色　于作於

。欲以兒代若姊兒肯之否　脫之

。父無奈之　同文本脫之

。夫婦雅敦述好　述好作好述

。何以見毛郎便終餓殍死乎　殍作莩

。倉猝登車而去　猝作卒

。後且脫汝于厄　于作於

。嵩伺察東來客　嵩作專

。慮爲顯者哭　哭作笑

。發金哭曰　哭作笑

。師嘿然自嘆　嘿作默又嘆作歎

。〔異〕　此豈慧黠者所能較計邪　本較計作計較又邪作耶

。〔異〕　彼蒼者天　脫天

續黃粱

。入揖而坐　揖誤室

。稍佞諛之　脫稍

。淹塞不爲禮　淹作偃

。于願足　于作於

。命三品以下　以誤而

。曾被服稽拜以出　拜作首

。何以遽至于此　于誤如

。立斃杖下　同文本斃作獘

。以綿薄違宿願　宿作夙

。奔走于門下　于作於

。不思捐軀摩頂　摩作糜

。片語方千　脫此句

。任肆蚕食　蚕作貪

。召對方承于闕下　于作於

。進于君前　于作於

。委蛇才退于自公聲歌已起　于作於

。聲歌已起于後苑　于作於

。內外駭訛　訛當作詫

。覺頭墮地有聲　墮作墜

。運賞于庭　于作於

。俄樓閣倉庫並已封誌　俄後加而

。少作代步亦不得　不得作不可得

。曾時以一手相攀引　攀作扳

。鼎足盡赤　赤作紅

。痛徹于心　于作於

。方以巨叉取曾出復伏堂下　伏作置

。復伏堂下　伏作置

。亂如密笋　笋作筍

。刺腹于其上　于作於

。刃交于胸　于作於

。三伯二十一萬　伯作百

。縮一火輪　火誤大

。伯由旬　伯作百

。餘生五采　采作綵

。懸鶉敗焉　焉作絮

。乞兒托鉢　托作拓

。豁然而寤　寤作悟

。〔異〕　忻然于中者　忻作懽又于作於

龍取水

。闊于三疋練　遺稿闊作濶又于作於

小獵犬

。樹陰濃茂頗無車馬喧而苦室中蟹蟲蚊蚤

甚多　脫自樹到而十字

。偃息在床　床作牀

。登床　床作牀

。鷹集犬竄于其身　于作於

。駭怪不知所由　怪作詫

。皦斃　同文本斃作獘

。甚于拱壁　于作於又壁訂壁

。壓于腰底　于作於

。自是壁蟲無噍類矣　壁作蟹

葬鬼

。林丘　丘作邱

。自晨至于日昃　于作於

。敗顙乞救　敗作頓

。于今七年矣　于作於

。問罪于王　于作於

。公嘆曰　嘆作歎

。〔異〕　甚于生者　于作於

。〔異〕　長生不死　此句作長死不生

辛十四娘

。墊驢于門　于作於

。堦土細草如毯　如誤鋪

。偶過古刹　過作來

。叟曰老夫流寓無所　叟作翁

。床幙　床作牀
。相對嘿然　嘿作默
。并不知何所　并作並
。疑必村落　必作心
。殊不玷于姻婣　于作於又婣作姬
。寔以香屑蒙紗而步者乎　寔作實
。旋見紅衣女子　女作娘
。女嘿々而已　嘿作默
。漫檢曆以待之　檢曆作涓吉稿本在此句之前文中初作命歸家檢曆以良辰爲定後檢曆改作涓吉故在此句亦作涓吉蓋妥當也
。綉驄已駐于庭　綉作繡
。少與生共筆硯相狎　硯後相前有頗
。且獻新什　什作作
。笑述于房　于作於
。將及于難　于作於
。公子第一生第二　脫生第二
。樂奏作于堂　于作於
。公子忽請生曰　請訂謂
。君到于今尚以爲文章至是耶　于作於
。勤儉洒脫　洒作灑
。目以紝織爲事　紝作衽
。出弔于城　于作於
。腦裂立斃　同文本斃作斃
。公子以生嘲慢故啣生　啣作銜
。又蹙之不動　蹙作蹙
。撫愛異于群小　于作於
。無停屐每于寂所於邑悲哀　于作於
。上至枸欄　同文本枸欄作句闌
。投錢于中　于作於
。〔異〕輕薄之詞多出于士類　于作於
。〔異〕以勉附于君子之林　于作於
。〔異〕再生于當世　于作於
白蓮教
。門人立白其無　立作力
。燒巨燭于堂上　于作於
。滿二滴　滴作鼓
。達于上官　于作於
雙燈
。忽聞樓下踏蹴聲　脫忽
。一女郎近榻微咳　咳作笑
。書生咳曰　咳作笑
。女果至咳曰　咳作笑
。乃咳曰　咳作笑
。魏近就之　此句作魏就近之
。綢繆之義　義作誼
捉鬼射狐
。爲人豪爽無餒怯　怯作卻
。公咳不聽　咳作笑
。生平不解怖　怖誤怪
。使炷息香于爐　于作於
。于月色中　于作於
。以足覓床下　床作牀
。僑居于溜之孫氏第　于作於
。話于庭　于作於
。啞々作椰揄聲　啞々作啞然
。其所目觸　觸作覩稿本初覩訂之作觸
蹇償債
。公忻然立命授之　脫立命又忻作訢
。讀書于蕭寺　于作於
。凡人有所爲而受人千金可不報也　脫人
。得勿駒爲某耶　勿作毋
頭滾
。床下　床作牀
鬼作筵

。得勿吾母耶　勿作毋
。于門外焚錢紙　于作於
。安能代庖　安作何
。杜以妻病革疑信未半　未作參
。語曰爾婦綦貪　爾作爾又曰誤以
。奄然竟斃　同文本斃作斃
。每盛炙于盞　于作於
胡四相公
。茶已斷繼之以酒　脫斷
。于行爲四　于作於
。已置几上　置作實
。一日張問胡曰　胡作狐
。請于主人　于作於
。請于狐　于作於
。狐相語于途　于作於
。于道途間　于作於
。唉逆　唉作笑
。張唉曰　唉作笑
。閤戶不敢出　閤訂闔
。張唉諭之　唉作笑
。獨行于途　于作於
。與胡莫逆　胡作狐
。一夕共話　共作與
。今請識數歲之友　歲作年
。相視而唉　唉作笑
。西州學使　州誤川
。嗒喪若偶　此句作嗒若喪偶
。遂與語間　語間作間語
。乞唉納也　唉作笑
。献于馬前　于作於
念秧
。禦人于國門之外者　于作於
。攫貨于市　于作於
。時以間語相引　間作言
。我青苑人　青作清
。少年嘆曰　嘆作歎
。嘆咤不已　嘆作歎
。壁下一床　床作牀
。肴酒　肴作殽
。排闔　闔作闥
。嘿然安枕　同文本嘿作默
。蹤跡殊杳　蹤作蹤
。裘服濟楚　濟作齊
。吳急投色於火　色作骰
。破局起關　起作啓
。極力周奉　奉作旋
。清問主人意將胡爲　胡作何
。何嘿不一言　嘿作默
。報兒唉曰　唉作笑
。其黨與甚衆　與作羽
。貞哉古言騎者善墮　脫貞哉而文末有信夫
蛙曲
。作劇于市　于作於
鼠戲
。男女悲懽　懽作歡
泥書生
土地夫人
。爲橋　拾遺此語前有溜邑
。土地神祠中　脫神
。極相悅愛　悅愛作愛悅
。美人曰　拾遺此三字作始曰二字
。未幾炳果卒拾遺　脫果
。炳妻叱之曰　拾遺脫之
。美人遂去不返　拾遺不返作不復返
。〔異〕　不知何物淫昏　拾遺此句後有假

託二字

濟南道人

。以齒啣髻除　啣作銜

。浴于河津　于作於

。人嘿不與語　嘿作默

。請于水面亭　于作於

。各于案頭　于作於

。繞其身　身作首

。共趨覘望　覘作觀

。往來于中　于作其

。一官偶嘆　嘆作歎

。此日佳集　集誤景

。少刻出　刻作頃

。與公所藏　藏作存

。斷堦下　同文本堦作階

。遇于金陵　于作於

陽武侯

。陽武侯薛公祿膠　脫膠

。請于主人爲宅兆　于作於

。得無以遣戍無人耶　無作毋

。至啓禎間襲侯其公薨　啓禎作天崇

。凡世封家進御者　世封家作世家輩

酒狂

。素酗于酒　于作於

。置床上　床作牀

。于是堂下人紛々藉々　于作於

。而何住　而作爾

。十六七歲時每三盃後喃々尋人疵　脫每

。用壓契餘待甥歸　今刊本契作券

。一帶長溪黑濱湧深不可底深不可底　作莫則深淺

。于村外曠莽中　于作於

。旋覺刺處痛腫隔夜成創　創作瘡

。猶幸不大潰腐　大作成

。飲于子姓之家　于作於

。日便償爾負便償爾負　便償爾負止一句

趙城虎

。訴于宰　于作於

。時啣金帛　啣作銜

。吼于堂中　本于作於

。土人立義虎祠于東郭　于作於

螳蜋捕蛇

。張姓者　拾遺張姓者之前有邑有二字

。尋途登覘　覘作視

。擺撲叢樹中　拾遺樹作林

。以尾擊柳　遺稿柳作樹拾遺擊作係

。柳枝崩折　遺稿柳作樹　拾遺崩作摧

。似有物捉制之然　脫捉

。漸近臨之則…脫臨之

。擲不可去　拾遺擲作牢

。蛇竟死　拾遺死作斃

。視額上革肉　額作頂

武技

。來托鉢　同文本托作拓

。翛々然交人而立　交作驕

。弄藝于場　于作於

。衆慫臾之　臾作恿

。〔王〕　踪跡　同文本作蹤蹟

。〔王〕　其最著者靳人也　同文本靳作鄞

。〔王〕　因識於後阮亭書　阮亭作漁洋

秦生

。余友人丘行素　丘作邱

第三册

鵶頭

。休於旅舍仍步門外　仍作間

。□執甚懽　□執作執手
。余因久客暫假牀寢　脫因
。勿以區々放却財神去　放作故
。王與女歡愛甚至　歡作懽
。王略無疑二　二作貳
。日獲贏餘顧贍甚優　顧作飲又贍作膳
。急詣六河　六作大
。王問看兒何說　說作故
。煩費不貲　煩作繁
。因以此情爲王述之　脫此與王
。望見孜愕立變色　愕立作持刄
。一狐貫心而墮　墮作落
。何得此爲　此句作何得爲此
。將醫爾虐　爾作汝又脫虐
。〔異〕　唐君謂魏徵饒更娬媚　饒更作更

饒

酒虫
。家豪富　豪富作富豪
。饞火上熾　上作大
。酧以金　酧作酬
。惡酒如仇　仇作讐
。後飲食至不能給　脫至

封三娘
。少豔美騷雅尤絕　騷作風
。一女子步趨相從　無相
。把臂歡笑　臂作袂
。於是大相愛悅　於是作遂
。冀是小姐今果如願　小姐作娘子
。嘿然拈帶　嘿作默
。自門外匆皇奔入　匆皇作怱倉皇
。此妾痴兄　妾作妹
。訊十一娘興居　興作起
。我亦思之　之作妹
。娘子何亦墮世情哉　娘作妹
。又數日有某紳爲子求婚　脫爲
。嘆々不言　嘆々作默々
。以問十一娘十一娘不樂　不重十一娘止

一

。但有涕泪　泪作淚
。痛悔無復及　脫復
。慉然悲喪　慉作慘
。相將去五十里　五十作十五
。世傳並非眞訣　此句作世所傳者並非眞

訣

。夫妻驚嘆久之　嘆作歎
。公愧怒　愧作大

狐夢
。攝想凝思　此句作攝思凝想
。風雅猶存　雅作韻
。有小女及笄　有作下
。畢郎與有夙宿　夙宿作宿分
。畢與握手入幃欵曲備至　曲作戀
。婢入白…　白作曰
。無怪三娘子怒詛也　脫子
。提抱刱頭　刱作膝
。我脆弱不堪　脆作脃
。肥刱耐坐　刱作膝
。以貍奴爲令　貍作貓蓋手稿本所記誤也
。小女故捉令鳴也　故重作故故
。二娘亦欲相酧　酧作酬
。大於彈丸　於作如
。怪道足冷氷也　冷氷作冰冷
。妾與四妹爲西王母徵作花鳥使不復得來
　曩有姉行與君家叔兄臨別已產二女今
　尙未醮妾與君幸無所累畢求贈言　脫
　自曩到累二十六字

。聊齋之筆墨有光榮矣　脫榮

布客

。遂相知悅　和作和

。嵩里山東四司隸役　山重作山山

。我最後相招　此句作然後相招

。某歸告妻子　某作及

。敬賚楮錠　同文本賚作齎

。呼名酹典　酹作酬

農人

。向人偶道旁一人　偶後有語

。今能爲怪耶　今作而

。曩所遇誠有之　脫之

章阿端

。得疾數日斃　同文本斃作獘

。此婢三十年來未經人道　經作通

。妾當極力　極作竭

。金百鋌　鋌作錠

。曲體戰慄妄有所睹　妄作若

。拉生同卧以首入懷　入作投

。端娘已斃牀上　同文本斃作獘

。聊恨索命去　聊作衝

。家人初聞而惧　惧作怛

傅氏媼

。一媼可八九十　遣稿十後有歲

。待尋筯來　遣稿筯作箸

。急起提釜　拾遣提作提

。家人盡醒　拾遣醒作起

金永年

。媼亦七十八歲　脫亦

花姑子

。陜之拔貢生　脫生

。田家少婢僕　脫田

。答言尙未　言作云

。安贊其惠麗　惠作慧

。致酒騰沸　騰沸作沸騰

。雖近兒戲亦見慧心　脫雖

。殊不羞澹　澹作蹙

。嘿若不聞　嘿作默

。狎接膩腕　膩腕作劇亟

。叟偷遽入問　偷作偬又問誤門

。竟莫得其居里　居里作里居

。氣勢帖危　帖作陌

。出數蒸餅置床頭　床作牀

。安嘿々良久　嘿々作默々

。安與同衾　衾作寢

。揲掮山中　揲掮作蹀

。訊章氏之居　訊作詢

。安問今家何別無人　脫今

。豈非夙宿　夙宿作夙緣

。惘然不覺矣　惘作惛

。裸死危崕下　死作尸

。涕洟其中　此句作涕泗滂沱

。停以七日勿殮也　以作一

。五年前曾於華山道上買獵獾而放之否曾作會

。聊恨切齒　聊作衝

。冲焰而出　冲作衝

。皆焦臭　臭作臭

。〔異〕　蒙恩聊結　聊作衝

武孝廉

。有女子乘船夜來臨泊　船作月

。呻以感謝　以作吟

。婦自往歸石止於旅舍　止後有之

。我非悍妬者　妬作妒

。厭旦往朝如事姑嫜　脫厭又旦作但

西湖主

。絓木而止　絓作挂
。已就斃矣　同文本斃作獘
。僮僕肢體　肢作之
。枵腸轆々　腸作腹
。方疑聽所　疑作凝又所作間
。度過嶺頭　頭作南
。囑云…　云作曰
。杳無人跡　同文本跡作蹟
。鬱多斂霧　多作低
。恐相妬　妬作妒
。莫信浚波上九天　上九天作更上天
。復尋故逕　逕作徑
。幸能垂救　此句作作幸垂救焉
。迂之女復來　迂作良
。眺望方殷　此句作盼望不已
。女子岔息急奔而入　女子前有忽
。經數十門戶　脫戶
。小魚啣尾　啣作銜
閻王
。殿閣弘麗　弘作宏
。李曰…　曰作云
。此甚悍妬　妬作妒
。恐欲哭不暇矣　哭作泣
。〔異史氏曰〕　天下悍妬　妬作妒
土偶
。姑憐其少亦勸之　脫亦
。數世祖宗皆有光榮　光榮作榮光
長治女子
。道士忽入女大驚欲遁道士捉而捺之　脫
自道到遁九字
義犬
。犬斃草間　同文本斃作獘
伍秋月
。無怪人不敢明告也　人不之問有亦
。亟欲自荐　荐作薦
。明倍于常　于作於
。不然壽恐不永也　壽作春秋
。生素不佞佛　佞作信
蓮花公主
。俄一貴官出迎見甚恭既登堂　脫既登堂
。遂踈參謁　踈作蹠
。王大悅曰奇哉蓮花乃公主小字　脫大悅
及奇哉
。王揖君未見　此句末有耶
。幸能垂宥　垂作寬
。卿既不住亦無敢於强　於作相
。何嘿不一言　嘿作默
。悔嘆而已　嘆作歎
。別後知劳思眷　後作來
。宮人前白…　白作曰
。王以案上一章授　授作投
。生岔息而返　岔作坌
。公主伏床悲啼　床作牀
。絡繹如繩　繩作織
。跡所由來　同文本跡作迹
。蜂入生家滋息更盛亦無他異　脫亦無他
異
綠衣女
。夜方披誦　夜方作方夜
。忽一女子在窓外贊曰于相公勤續哉因念
深山何處得女子方疑思間女已推扉笑
入曰勤讀哉　脫自因到曰二十字
。遂以蓮鈎輕點足牀歌云…　足作倚
。聲細如菅　菅作絲
。女曰妾心動妾祿盡矣　心動後重加心動
。何遽此云　此云作云此

。不知何故是慚心怯　是慚心怯作只是心
怯
。方欲歸寢聞女號救甚急　寢作忽
。四顧無跡　同文本跡作蹟
。奄然將斃矣　同文本斃作獘
。徐登研池　研作硯
黎氏
。遣二子一女　二作一
。謝以實告既亦問婦　脫既
。婦籌躅　籌作躊
。請毋疑阻　毋作無
。人何于與　與作預
。恐不允諧　允誤久
。倍極懽好　懽作歡
。惟三頭存焉　三作二
。〔異〕　報亦慘矣　慘作怪
荷花三娘子
。女日我出已久　我出作出門
。恐人所疑　所作見
。亦無術暫絕使去　無暫
。謂我妖惑　此句作謂妖惑我
。女慘然色變　色變作變色
。投釜湯烈火烹煮少頃斃矣　此句作投釜
湯煮之可斃同文本斃作獘
。家人歸並如僧教　脫並
。宗益沉綿若將隕墜　脫若將隕墜
。聞病沉篤將便省視　便作往
。今爲君覓一良匹　君作若
。早越南湖　越作赴
。何待教　此句作何待教也
。惟恐其亡　亡作去
。展視領衿　衿作襟
。〔友人云〕　放翁佳句可爲此傳寫照　脫
傳
罵鴨
。彼深畏罵焉　無焉
。〔異〕　甚矣攘者之可懼也　脫甚矣
柳氏子
。生一子溺愛甚至　溺作惜
。病卒不減尋斃　同文本斃作獘
。衆既歸寓亦謂其未必即來厭旦伺之子果
至　厭旦伺之作明旦俟之
。問柳某否主人答云無　脫主人
。初與義爲客侶　與義之間有結作結義
。柳在櫝歷々聞之　櫝作櫝中
。汗流接踵　接作浹
上仙
。梁四十以來女子也　以作巳
。賦詩懽笑　懽作歡
。便聞案上嘆咤聲似一健叟　嘆作歎又脫
一
。座上大言曰有緣哉有緣哉　有緣哉不重
。客何所諭教　諭作論
侯靜山
。崇禎間有猴仙　崇禎誤崇正
。大聲嘆贊　嘆作歎
◎刊本此篇末更加「長沙有猴」之一短文
稿本無此文。
錢流
。沂水劉宗玉云　脫云
郭生
。其所塗留似有春秋　春作陽
。不惟勿患　惟作唯
。入闈中幅車　幅作謂
。汚蔭幾無餘字　蔭作漬
。乃錄向之洒點煩多者試之　洒點煩多作

濃墨酒點

金生色

。妻聞之甘詞厚誓期以必死　必死作死守

。壻遽遭命　命作夭折

。寗非痴子　子作乎

。使人言於未約　未誤木

。見亡者自幛後出　幛作張

。戴劍入寢室去　戴作帶

。將假衣於媼　媼作嫗

。踪跡殊杳　同文本踪跡作蹤蹟

。俄鄰子以執姦自首　姦作奸

。家產蕩焉　焉作然

彭海秋

。折簡邀丘　丘作邱本篇所見丘刊本都作邱

。彭代爲之慚因撓亂其詞　因作故

。相與懽笑　懽作歡

。客嘿然良久　嘿作默

。驚嘆不已　嘆作歎

。乃以于向空　于作手

。捉女入窓目如盤　此句作捉女窓窓眼數寸

。俄聞鄰舟　舟作船

。待再假兩騎來　騎作馬

。彭歸繫馬而入　脫歸

。相共嘆咤　嘆作歎

。遂捨念此苦海人　脫此

堪輿

。沂州宋侍郎君楚　侍作司

。鄉荐　荐作薦

竇氏

。去所居十里餘　里餘作餘里

。是後常一過竇　是作自

。何貴倨凌人也　也作耶

。既親而奩妝豐盛　而作迎

。悉送歸夫家　送歸作歸送

。嫗草々逕去　逕作徑

梁彥

。頃入衿底　衿作襟

魁星

。惟生一人存焉　拾遺生作張

。何以不爲福而爲禍也　遺稿也作耶

馬介甫

。然衣敗絮恐貽訕笑　然作頹然

。但少年孤害耳　害作苦

。婦亦隨出　隨作遂

。坐立不寧　寧作安

。乃敢入次旦而前　次旦作趦趄

。呼僮具牢饌　牢作肴

。得其故大駭竊疑馬　馬誤焉

。既得好合　好合作合好

。婦不顧哀至漏三下　哀後加懇

。顛蹙而斃　同文本斃作獘

。俟家人食訖　俟作候

。如渠不去理須威刼　渠作若

。保無虧也　虧作虞

。捉臂相用慰勞　慰勞作勞慰

。嗒焉若喪　焉作然

。以劣行黜名　脫行

。近村相戒無以舍舍萬石　脫相

。閽人訶拒　訶作呵

。何一貧至此　一作以

。始爲完婚　婚作昏

。賚金贖王氏歸　同文本賚作齎

。歸告侄　侄作姪

。萬石猶時就尹癈寺中　癈作往

。侄以爲玷　侄作姪
。〔異〕　內懼天下之通病也　脫內懼
(附)　妙音經跋
。就濕移乾　移作推
。天香夜爇　爇作墜
◎稿本無趙氏刊本所有章邱李存廉之一文
絳妃
。又有二三麗者　二三作一二
。方思展拜　思作欲
。少間稿脫　稿脫作脫稿
。忌嫉爲心　心作懷
。濟惡以才妬同醉骨射人於暗奸類含沙
此句作絕殊偃草射人於暗深類含沙
。昔虞帝受其狐媚英皇不足解憂　受其狐
媚作樂其薰融又英皇改作富貴
。沛上英雄雲飛而思猛士　雲飛作雲散
。從此怙寵日恣因而肆狂無忌　此句作從
此顧盼自雄因而披猖無忌
。生江之浪　生作助
。尋帷下榻友同入幕之賓　尋帷下榻作搴
帷拂簟又反作儼
。排闥登堂　登作升
。幾掠妃子而去　妃子作蹁躚
。箏聲入乎雲霄　入作香
。不奉太后之詔　太后作明空
。欲速花開　欲作特
。蕩漾以來草皆成偃　草皆成偃作石皆作
燕
。瓦欲爲飛　此句作瓦竟分鴛
。於意云何　於作于
。至於海鳥有靈　有作而
。願喚尤郎以歸　尤作石
。御以行者幾人　幾作何
。漫以河伯爲尊　以作云
。愁覓殘紅於西東　脫愁
。五更非錯恨翩翾江漢女　脫恨翩翾
。發無端之踔厲　發作逞
。催蒙振落　催作發
。霄涕誰憐　霄作隕
河間生
。場中積麥穰如丘　丘作邱
。聚飲頗嘩　嘩作譁
。任意取案上酒果抔來供生　抔作懷
。筵中人曾莫之禁　禁作覺
。命翁取之翁曰…　脫翁
。生嘿念狐與我游　嘿作默
雲翠仙
。才亦起亦出履　脫亦
。其即不知其往　即作迹
。都不必貴公子富主孫也　公子作子弟
。我又未婚　婚作昏
。輒訶　訶作呵
。似此何能自給老身速歸　脫自
。里無賴　作無賴子
。千金在室而聽飲博無貲耶　聽作慮
。可稍稍佐經營　佐作有
。有何發跡　同文本跡作迹
。毋日以壻家貧常々縈念今意斷矣　意作
義
。保無差貸　貸作忒
。撾闔入見樓舍華好　闔作關
。婢僕輩往來憧々　脫婢
。才坐聽移時語聲俱寂　語聲作人語
。奄將溘斃　同文本斃作獘
。至則門洞廠　廠作敞
。後遇向勸鬻妻者于途　于作於

。〔異〕 歷々想將落時 將作已
跳神
。堂中肉於案 案作架
。甚設几上 甚作盛
。蓬々耿人耳 蓬作逢
。既而首垂 脫而
。語亦不得聞鼓聲亂也 脫鼓
。假虎假馬 脫假馬之假
。一家媼媳姊若妹 若妹作娣
鐵布衫法
。沙狗子 狗作回
大力將軍
。有吳將軍六一者 一誤奇
。爲諸父行 諸作從
。少間登則… 登後有堂
。酒闌羣姬列侍 闌作間
。堂內外羅列幾滿 幾作己
。即令男爲治裝 令作命
顏氏
。裁不能成福 脫不
。少惠 惠作慧
。就與攀讀以字紙裏繡綫 以作一
。卿自不知辭苦眞宜使請嘗試之 脫眞宜
使
。誰得其辨非 此句作誰得辨其非
。不及第不婚也 婚作昏
。於是使生承其榔 榔作衡
。生羞襲閨榔 榔作衡
小謝
。女近以左手捋髭 近作遂
。假寐以俟之 俟作候
。把腕而教之畫 畫作書
。意似妬 妬作妒
。生於是折兩紙爲範 脫生
。踰月小謝書 月作日
。誣以行簡 簡作檢
。逼充御媵 御媵作媵御
。一女戚然曰… 一作二又脫然
。明眸皓齒 明眸與皓齒之間有而
。待見其人便相交付耳 脫見又人作入
。何妨一獻妻孥 一作以
縊鬼
。范生者宿於逆旅 於作于
。襟衣置椅上 拾遺椅作架
。發篋開奩 拾遺此句作發奩開篋
。婦從客跂双彎 拾遺跂作起
。目卽含 含訂合
。舌出吻兩寸許 拾遺許作餘
。孃子婦自經於此 於作于
。吁異哉既死猶作其狀此何說也 拾遺此
句作異哉其狀死猶不忘也
。〔異〕 寃之極而至於自盡 拾遺極作至
又於作于
。〔異〕 獨於此際此境 於作于遺稿境作
景
吳門畫工
。忘其名 遺稿其名作其姓字
。遽捉其臂 遺稿遽作遂又捉作指
。然此處非語所 遺稿脫處
。某忽觸念夢中人得無是耶 遺稿無作毋
。由是授官中書辭不受 遺稿脫辭
林氏
。君悞信之交而得孕將復如何 如何作何
如
。林言易耳易耳 易耳不重
胡大姑

。岳于九（人名）　于作於
。各白身蹲床上　床作牀
。忽見好女子自窗入　脫好
。耑崇其子婦　耑作專
。岳祝曰兒女輩皆呼汝姑　兒作男
。淫狐不自慙　脫自
。剩一二事　同文本剩作賸
細侯
。設帳於餘杭　於作于
。偶涉廛市　涉作步
。欲傚作一首　傚作効
。妾婦君後當長相守　長作常
。四十畝聊足自給　足作作
。君讀妾織暇則詩酒可遣　脫暇
。生即棄館南游至則令已免官以罣悞居民舍　自令到悞七字作令以罣悞免官六字又居前有僦
。時致餽遺　餽作饋
。母詰知故不可奪亦姑聽之　姑作故
。賈以金賂當事史使久錮之　脫史
。無論滿生已死縱或不死　縱或作或縱
。汝成人二三年　脫二
。然念素無卻　作素念無卻
。方悟前此多端　此作次
狼三則
㈠。屠懼示之以刃　脫示
。默念狼所欲者肉　脫所
㈡。二止有剩骨　同文本剩作賸
美人首
。板有松節脫處　松作杉
。衆駭其妖欲捉之　脫之
劉亮采
。問所居曰…　居後有止
。只在此山中間處人少　脫只
。自蒙下交　下作一
。固不能爲翁福亦不敢爲翁禍　此句誤作固不能爲翁禍
蕙芳
。貧賤傭保骨得婦如此不稱亦不祥　脫保
。言娘子宜速去　脫宜
。馬以所疑慮具白之　腕所
。未得母命不敢進也　進作召
。婢來亦不費毋度支　脫亦又母度支作母事
。楉楉撼擺之　楉楉作諾
。呂見其惠鹿　惠作慧
。我歲月當一至焉忽不見　忽前有己
。其人但朴諾無他長　諾作訥
。〔異〕　仙人之貴朴諾誠篤　朴諾作樸訥
山神
。視其柈饌雜陳珍錯　柈饌作杯盤
。忽遙有一人來　遙作逕
。李亦伏匿坎窞中　脫中
蕭七
。早旦而發如何也　如何作何如又脫也
。輒以諧語相嘲　相嘲作嘲徐（注）徐人名也
。感疾帖危　帖作阽
。獲一捫其肌膚死無憾彼感此意諾如所請彼感此意作此女
。輕薄郎何宜相近　郎作兒又宜作以
亂離二則
㈠。如肯即以此爲汝婦　（遺稿此作此女）
。既而枕上各道姓氏　遺稿脫枕上
㈡。公賚數命使買婦　遺稿命作金
。如賣十馬　遺稿十作牛

。不屑謀媼　遺槁屑作肯
。汝從我夫服役如何不識　如何作胡
。母妻重聚　遺槁此句作母子夫妻皆聚

豢蛇

。怒目電瞛　瞛作縱
。終夜不寢　寢作寐
。大如盎琖者行臥不一　一作絕
。見生人皆有吞噬狀　見生之間有一又脫
　吞

雷公

。雷中沾穢若中刀斧　中作公
。顛倒庭際　拾遺際作中
。少時雨暴澍身上　拾遺澍作注

麥角

。髮裁掩頸　脫裁
。崔爾誠　誠作成
。伯父病亦卒　此句作伯父亦病卒
。面目間有一二頗肖其母　一二作二三
。遂邀歸　邀作迎
。大倫不可癈　大作天
。當爲兒娶之　之作婦
。成聞而哭　聞作謝
。於是轉悲爲喜　於作于
。是夕送諸其家　諸作至
。一夜譟言寇至　譟作姥
。金毛吼　吼作犰

餓鬼

。家卒屢空　脫卒
。兩手交其肩　脫兩
。少携妻居於五都之市　脫携妻又少居間
　有移
。暮歲歸其鄉　歸其鄉作還鄉
。公質縣君君廉得實　君訂尹
。三日斃焉　同文本斃作獘
。有訟士子者卽富來叩門矣　脫富

考弊司

。抱病經日　日作月
。廨宇不甚弘廠　弘作宏
。躇階而進　躇作歷
。便問興居生但諾　諾重作諾々
。生不敢言驟起告別　脫敢
。暫命止割　命作令
。候生貴家　貴家作貴人家
。呶呶不滿志　脫志
。響腸鳴餓　此句作飢腸雷鳴
。得勿爲夜叉所迷耶　勿作毋
。生暴絕　絕作卒

第四册

雲蘿公主（第一丁缺）

。生以其纖弱恐不勝　不與勝間有能
。袁爲人簡嘿　嘿作默
。贈象箸楠珠等十餘事　楠作枏
。啣生去　啣作銜
。可懷牒去到郡自投　脫去
。足股屈伸　屈作曲
。女郎嘿然　本嘿作默
。但婢子之爲所不屑耳　爲所作所爲
。幾於壓骨成勞　勞作癆
。遂領鄉荐　荐作薦
。樽節之則長恣縱之則短也　本樽作撙
。後又歸寧竟不復返　脫竟
。不使有所得　此句作無所得
。彼固作此態實不敢歸也　固作故
。可棄已坌息入　坌作屛

◎稿本異史氏曰文之後附關於章岳李孝廉

之文、刊本無此文

鳥語

。想此家双生也　双作孿

。詢之果生二子　脫生

。時辨鳥言　言作語

。立逐而出　此句作立逐之去

。已而果皆被黜　皆作俱

天宮

。揭尊微嗅洌香肆射　肆作四

。使捫啖之　稿本捫啖之間有消字刊本作而又使作便

。實所惶悔　悔作愧

。女使諸婢扶裸之　脫諸

。如嫌洞中怏悶不如早別　中作府

。夜得名花　脫名

。褥革棕毡　棕作樓

。恐覓死無地矣　脫覓死

。竊間一告知交　一作以

。莫有測其故者　測作知

喬女

。願以少女字孟家人皆喜而孟殊不願　脫家人皆喜

。閉戶不敢復行　復作出

。烏頭夫妻有小過　妻作婦

。爲穆子完婚　婚作昏

。〔異〕若遇九方皐直牡視之　脫視

劉夫人

。何但作富家翁乎　乎誤子

。即設筵婦側坐　此句作即設席於坐側

。再盡三爵告君知　盡作益

。公子雖異姓亦三生骨肉也　三作前

。薄藏數金　數作窖

。生辭以少年書癡　生作廉生

。遂輪纖指一卜之　今刊本一作以

。歲秒始得歸　秒作杪

。另有餽賞　餽作酬

。生命唱陶朱　此句末有富

。所信者在腹心勿勞計算　腹心作心腹

。至此方知無益　方知無益作方無策

。生問伊誰　伊誰作其姓

。煩公子一營辦之　脫子。

陵縣狐

。僕輩稱寃　寃作怨

王貨郎

。如齊河索貰價　價作債

。勿須復入結矣　復在須前

。急賃騎送之之歸　之訂以眞生

。以小琖挹取入壺　脫挹

。但貪心未靜耳　靜作淨

。賈潛起搜諸衣底　諸作之

。瞭然若有所失　瞭然作邮然

。當在若所　若作君

。君自仙人　自作是

。賈不磨鎛而磨砧　脫而

。眞嘆曰…　眞嘆之間有乃

。生平自愛一毫不敢妄　脫一毫布商

。遂握刀相向客哀之切　脫相向何神

。乩神自稱何仙　脫乩

。文與數適不相符　脫適

。一切置付幕客　置作寘亦通

。六七人粟生例監都在其中　六前加客

。其靈應如此　文末無此句

。〔異〕幕中多此輩客無怪京都醜婦巷中

至夕無間□也烏乎（以下缺）

無此評文

神女

。兩少年出逆客　逆作迎

。遂增一筵于上　于作於

。但不知何省何官　省作籍

。休于路側　于作於

。君不幸得毋望之禍　毋望作無妄

。乃于髻上摘珠花一朶　本于作於

。執花懸想　懸想作諦視

。幸兒賢爲之經記　脫之

。即曩年車中人　年作時

。于衣下出珠花　于作於

。繪一小像　一作以

。女怒日子誠敝人也　脫怒

。竊印爲之篏之　篏作鈐

。此足以償珠花否耶　脫否

。昔有巡撫愛妾死　脫愛

湘裙

。心惻然動急委綴之　委作急

。問汝父何名答言不知　答作笑

。仲怒奪拳直入　入作上

。執兒頓足哀泣　兒後加手

。大哥地下有兩男子　男作兒

。湘裙惠而解意　惠作慧

。以指刺匡而罵　匡作眶

。兒甚惠　惠作慧

。一日双媒來爲阿小議姻　姻作婚

。一夕夫妻款洽　妻作婦

。如欲見之　本脫之

。湘裙甚恨而無可如何　脫可

。不敢我言後恐却之不得耳　恐在後前

。吾何以見吾姊矣　矣作乎

。伯揪返罵　返作髮

。設非名分之嫌便當撻楚　便作伊

。伯顧小喜　小作阿小

。轉身遂逝　身作盼

。房官而不荐　荐作薦

。興抗言笞罪太輕　脫笞

。是必掘其双睛　掘作抉

。衆始大快　始作人

。有兵巡道往平賊　兵巡作巡兵

。某至陰可投狀訟興　脫司

。遲之三十年興始至　之作至又年後有後

更脫始

。俄頃俱斃　同文本斃作獘

。後壻中歲淹蹇　淹作偃

長亭

。太山人　太作泰

。石由此精于符籙　由作於又于作於

。廊舍華好　舍作屋

。見少女卧縠幃中　幃作帳

。婢以鈎挂幃望之　幃作帳

。是夜少年不復至　脫復

。索水灑幃　幃作帳

。病軀何敢復愛　此句末有矣

。漏二下　二作三

。疾犇而往　犇作奔

。心懷怨憤無之可伸　之作計

。石料其不返禁止之女自此時一涕零　脫

女

。適家人由海東經此　脫人

。妾爲君父　脫君

。數年不反　反作返

。長亭飄入　飄入作飄忽而入

。公子數通蕩　數作素

。拚已決絕過二三日　同文本拚作拌
。彼羞惡之心未盡亡也　亡作忘
。當亦不復過問　復在不前
。〔異〕　乃復狎弄于危急之中　于作於
席方平
。身赤瘇　瘇作腫
。使謂獄吏悉受賕囑　賕作賄
。脛股摧殘甚矣　脫摧
。遣役押送歸家役至門辭去　歸家作家門
又辭去作而去
。官府求和而執不從　和作合
。反復揉捺之　復作覆
。大怨未伸寸心不死　怨作寃
。顧亦忍而不號聞　而作受又號聞作復言
。二鬼卽推令復合曳使行席覺鋸鋒一道
脫令、又合曳使行作忽然身合、更席
作猶
。席念陰曹之暗昧尤甚于陽間　于作於
。約犇數十里　犇作奔又十作千
。斧敲斷々入木　斷々作斤斷又脫入木
。鯨吞魚魚食蝦　此句作魚食鯨吞
。助酷虐于昏官　于作於

素秋
。公子聞與同姓又益親洽　脫又
。妹子犇波　犇作奔
。弟自分已登鬼籙啣恩無可相報素秋已長
成既蒙嫂氏撫愛媵之可也　脫啣恩無
可相報
。是眞吾弟之亂命矣　矣作耳
。俟素秋他出啓而視之　俟作使
。駭異問素秋促入　異作疑
。非避兄也但恐傳布飛揚　布作播
。日近匪人　人作徒
。皆以鬻償戲責　責作債
。言及遇蟒之變悉謂其詞枝　枝作支
。今復見妹萬金何能易哉　金作鎰又何作
豈
。又念生家故不甚豐　脫家
。壻亦不之辨也益奇之　辨作知
。公子陰使人委送之　委作尾
。竟無踪迹　同文本踪作蹤
賈奉雉
。是秋入闈復落邑不得志　落與邑之間加
鬱

。日已西墜直錄而出　出作去
。遂約明日過諸其寓　脫
。不得已復理舊業　舊作故
。時杲入泮已久　杲作果
。〔異〕　亦復誰人識得　識作做
。〔企〕　此處有仙骨焉　處作蓋
臙脂
。有女小字胭脂　有與女間有小
。先令夜來一聚彼豈不肯可　脫可
。事至此已不能羞　羞作收
。宿捉足解繡履而出　出作去
。但恐畫虎成狗　狗作犬
。詰之、不應疑婦藏匿、婦故笑以疑之
脫故
。反身奪刄　刄作刀（〔注〕此句之前有謂操刀直出之句故蓋今刊本訂正之也）
。先問胭支　支訂脂
。胭支供言　支訂脂
。聞學使施公愚山賢能稱最…　脫愚山
。供言無有　有作之
。既不自招當使鬼神指之　脫使
。楊介蹈盆成括殺身之道　楊介明宿介之

誤也、刊本作宿介

。將仲子而踰園牆　脫園

。冒劉郎而至洞口　而至洞口作而入洞

。攀花折樹　樹作柳

。蓮花瓣却墮地無踪　瓣却作却瓣同文本踪作蹤

。酷械至于乘亡　酷作梏又于作於

。折其已愛之懆　懆作刑

。姑降青衣開其自新之路　其作彼

。城壁入人家　越作穴。

。胭支身猶未字　支訂脂

。並托秋準　托作名

〔異〕　作寶藏興文　興與文間有焉

〔異〕　這一回堰中跌死撐船漢　跌死作眞跌

阿纖

。苦少烹瀹　瀹作鬻

。少頃以足床來　足前加短

。子孫皆夭折剩有此女　同文本剩作賸

。凡四反而粟始盡　反作返

。隔扉應曰客何人我家故無男子　脫客何人

。女愴然曰…　愴作慘

。爲散粟于里黨　于作於

。且非渠妾何緣識三郎哉　三郎單作君

瑞雲

。客則聽女自擇之　脫之

。忽小鬟來白客　來白客作白客來

。窮蹤之士惟有痴情可獻知己　脫情

。賀憐之與媼言願贖作婦　脫作婦

。聞者共姍笑之　脫之

。不然如僕者何能於拘欄中買佳麗哉　脫於

。和起拜曰瑞雲之婿卽某是也　和明賀之誤刊本訂賀

仇大娘

。出立斃之　同文本斃作斃

。邵漸聞之　之作知

。仍使祿從師讀　仍作乃

。福倚爲腹心交　交前有之

。田產悉償戲責　責作償

。數日復空　復誤一

。既而威逼之　脫而

。明日拘牒已至　脫拘

。田產殊不置問　不置問作置不問

。情詞忼慨　忼作慷

。輒握刃登門　刃作刀

。有畫橋朱檻　檻作楹

。祿信之　之作步

。一婢出窺見之　脫之

。祿大窘自投溪中　溪中作溪水

。受恩匪淺　匪作非

。早告父母　脫母

。乃引旗下逃人誣祿寄貫國初立法最嚴自乃至嚴十六字作時有巨盜事發遠竄乃誣祿寄貫

。至都北　都北誤北都

。寄將軍帳下爲奴　奴作卒

。後寇投誠賣仲旗下時從主屯關外十四字作後寇逃竄仲遂流徒關外爲將軍僕

。已而憤曰何物逃東、逐詐吾兒、因泣告將軍卽命祿攝書配亟致親王付仲詣都仲伺、車窗出先投冤狀親王爲之婉轉遂得昭雪命地方官贖業婦仇　此文作居無何將軍獲巨盜數十中有一人卽曩時魏所誣祿之盜魁也既具供狀父子咸

泣告將軍將軍爲之昭雪上聞命地方官
贖業婦仇
。乃知仲入旗下　入旗下作投將軍有年
。魏大駭不知其自　其自之問加故作不知
其故
。山是鳩工大作樓舍羣起　羣作蠶
。兄弟皆泣曰…　脫皆又泣後有告
。〔異〕　掬亦汚也　亦作一
龍飛相公
。但身在九地　地作泉
。遂置卷案頭皆成洪制藝　洪作宏
。歷時覺有數年之久　覺作若
。翁一日謂曰…　翁作公
。竟少踪緒　同文本踪作蹤
。〔異〕　洞沒于水　于作於
。〔異〕　三年地獄中鳥復有生人哉　復作
得
珊瑚
。父孝廉蚤卒　蚤作早
。小字珊瑚性嫻淑　脫性嫻淑
。無何王率珊瑚出　脫王與率
。王傲不相爲　爲作下
。母怒甚而窮于詞　于作於
。父見其意氣匈々　匈々作詢々
。于是與于嫗居　于作於
。生于是奔告于嫗　于作於
。嫗不肯少嘗食緘留以進病者　食緘作輒
。先求見甥婦亟道甥婦德　亟作極
。固非予婦也而婦也　而作子
。悉以良田鬻于村中任翁　于作於
。往酹償訖　酹作酬
。我固謂兄賢不至于此　于作於
。二成乃券田于主　于作於
。餘仍返諸兄以覘之　覘作觀
。無何長男病痘死　臧姑始惧　脫始
。〔異史氏曰〕　生于憂患有以矣夫　于作
於
五通
。父母兄弟皆莫敢息　敢息之間加喘
。有趙弘者吳之典商也　趙弘作邵弧
。因抱腰擧之如擧嬰兒　脫擧之
。弘于門外設典肆　弘作弧又于作於
。弘知其五通　弘作弧
。惟婦對燭含愁以伺之　伺作俟
。有會稽萬生者趙之表弟　趙作邵
。一日過趙　趙作邵
。趙以客舍爲家人所集　趙作邵又集作積
。叩關告趙趙大驚　二趙共作邵
。昧美異于常饈　于作於
。萬生之名由是大譟　譟作噪
。于是素患五通者…　于作於
五通（又）
。園中屋宇無多　脫園中
。卿雙明殊　卿作銜
。以鈿照逕　逕作徑
。妾實金龍大王之女　實作屬
。家君聞之爲大辱　辱作恥
。覺一人捉予塞嵒中　脫予
。此事與趙弘一則　趙弘作邵弧
中氏
。世不田而農者止兩途　農作食又止後有
有
。癡兒何至于此　于作於
。入于垣中　于作於
。嘿憶垣內爲富室元氏第　憶作意
。伏伺良久　伺作俟又久作專

。直將雞鳴始越垣出　直作時
。又連擊之遂斃　同文本斃作獘
。有女絕惠美　惠作慧
。夜既寢更不知扉何自而開　脫既與而
。翁戒家人操兵　兵作刀
◎此篇之異史氏曰文之後有著者邑人某乙之一則刊本無此

恒娘

。年二十以來　按以當削除刊本無
。竝不聞其詬誶一語　脫其
。驚然　驚作驚
。攬鏡而嫻習之　鏡作鑑
。懽笑異於平時　懽作歡
。于是試使睨　于作於
。拖敝拈履　此句作敝衣拈履
。至於牀第之間隨机而動之　机作機
。朱大悅形神俱惑　此朱蓋誤記也當作洪刊本作洪
。于是寶帶恨洪　于作於
。行相別敢以實告妾乃狐也　相作將
。朱把手唏噓　唏噓作欷歔

葛巾

。目注句崩以望其拆　拆作坼
。遂引而盡之　盡誤作進
。仿佛其立處坐處　仿佛作髣髴
。生登垣欲下無階恨悒而返　恨悒作悒悒
。自理衿袖　衿作襟
。遂有裹刊之慎　裹作懷
。生辭日卿情好…　鄉前有感
。女探入出白鏹近五十兩許　入作之
。是有惠根　惠作慧
。卽亦匪難　匪作非
。使御者止而候于途　于作於
。有仇否答言無仇　仇作讎
。嘿無一言　嘿作默
。忽見壁上有曹國夫人詩　脫上
。〔異〕　裹之專一　裹作懷
。〔異〕　鬼神可通　鬼神作神鬼
。〔異〕　何必力窮其原哉　原作源

黃英

。未幾菊將開　脫將
。盡懽始散　懽作歡
。更於墻外買田一區　脫於墻外
。惟耑候陶歸而已　耑作專
。一々賫還之　同文賫作齎
。乃于園中築茅茨　于作於
。具道契濶　濶作闊
。我歲秒當暫去　秒作杪
。二人縱飲甚懽　懽作歡
。皆大于拳　于作於
。後女長成嫁于世家　于作於
。〔異史氏曰〕　植此種於庭中　於作于

書痴

。惟父藏書一卷不忍置　置訂賣
。又幃以素紗惟恐磨滅　幃作籠
。于亂卷中得金鐶徑尺　于作於
。或勸其娶　其作之
。使女坐其側　坐後其前加於
。殊無影跡　跡作迹
。忽覺女所隱處　脫女
。既仍于漢書八卷中得之　于作於
。子可以出而試矣　試作仕
。但嘿不言　嘿作默
。聞于邑宰史公　于作於
。女聞知道遁匿無跡　女聞知道作女聞之同文本跡作迹

。斥革衣衿　衿作襟
。略能道其仿佛　仿佛作髣髴
。而卿恨切於骨髓　卿作衒
。〔異〕　積則招妬　妬作妒
齊天大聖
。賈于閭　于作於
。窮極弘麗　弘作宏
。月餘創漸斂　創作瘡
。足徵余之疾非由悟空也　余作吾
。兄暴斃　同文本斃作獘
。投祠指神而數之　脫神
。不敢有異辭　辭作詞
。于人何尤　于作於
。乃命青衣使清命于閻羅　于作於
。閻羅不敢擅耑　耑作專
。啓棺材視之　脫材
。更倍于流俗　于作於
。但云不遠　云作言
。烹茗獻客止兩琖　琖作盞
。又求祐護　祐作佑
。〔異〕　畫琵琶于壁　于作於
。〔異〕　比返則其靈大著　返作反
。〔異〕　固宜得神明之祐　祐作佑
。〔異〕　豈眞耳內繡針　針作鍼
青蛙神
。幼惠　惠作慧
。嘿然不言　嘿作默
。赤爲喜白爲財必見　見作驗
。怒則踐斃　同文本斃作獘
。鬱冒不食　冒作悶
。負荆于祠　于作於
。不能恪備錢　恪作吝
。娶妻不能承懽　懽作歡
。不過橫灾死耳　灾作災
。十娘亦怒出門逕去　脫亦怒
。無所涉于父母　于作於
。賚材鳩工　同文本賚作齎
。日數百人相屬于道　于作於
。庆葬器具悉備焉　庆作牀
。清罪于神　于作於
。崑生懷念十娘　脫懷
。因亦求婚他族　婚作昏
。于是益思十娘　于作於
。不敢留孽根于人世　于作於
任秀
。宿廷人　廷作遷
。爲我小備斂具　斂作殮
。剩者可助資斧　同文本剩作賸
。斂已　斂作殮
。泊舟關外時鹽航艤集　舟作州
。心怔冲　冲作忡
。赤傾橐出百金　橐作囊
。一舟之錢俱空　舟作船
。故托非錢不賭以難之　托作託
。欲取償于秀　于作於
。過訪榜人　榜作旁
。故不復追其前郤矣　故作遂
晚霞
。流波四遶　遶作繞
。俄入宮殿　入作現
。目阿端伎巧可入柳條部　脫阿端
。鼓鉦喤聒　喤作皇
。不復可聞　此句作不可復聞
。一時清風習々　習々作嫋々
。嘉其惠悟　惠作慧
。病不少瘥　少作稍

。吳江王壽期已促　促作迫
。端悵惘若失　惘作望
。端托晩霞爲外妹　托作託
。遂傳聞王邸　王作淮王
白秋練
。聰惠喜讀　惠作慧
。輒見窗影憧憧　窗作牕
。欲附爲昏因　昏因作婚姻

。媼不實信　脫實
。悔不詰媼居里日既暮　悔作恨
。接脛爲戲　脛作脣
。昏嫁尙不可必　昏作婚
。淒然泪瑩　泪瑩作淚熒
。細審舟中財物並無虧損　財誤作則
。臨別以吟聲作爲相會之約　聲作詞又脫
作

。斂貲禱湖神之廟　湖誤河
。姑以解其沉痼　痼作痛
。愈迎則愈距　距作拒
。價已倍蓰　已作以
。必爲致數罈而歸　罈作罎
。生出羅求書　羅作綾
。奄然遂斃　同文本斃作斃

右によつて明示されているように、稿本と趙本との間には、一字一字の小部分の相違から、「仇大娘」「王成」「綠衣女」等のような、かなりな長さの字句に及ぶ相違、更には、「申氏」「侯靜山」「雲蘿公主」「何神」「促織」等に見られる著者の評文及び後附文の有無等に及ぶ大きな相違がある。これらの相違は、趙起杲がその刻本の底本を作つた時の取捨によつて生じたものと一應考えることができるが、あるいは著者老年時の再整理の場合に增補改創された結果生じたものであるかもしれない。なお、異本として、慶應義塾大學所藏の零本の乾隆五十年重鐫の王金範刊本と、中華書局より出版された「原本加批聊齋志異」とがあり、共に稿本及び趙氏刊本とは相當な相違があるが紙幅の關係で、それらと稿本との對校は割愛せざるをえなかつた。ここではこの二本が夫々稿本及び趙氏刊本とは相違のあることだけを一言するに止め、その對校の發表は別の機會にゆずりたい。

三

この稿本の持つ價値が、單に骨董的なものでなく、聊齋志異研究の根本資料として高く評價されるべきものであることは、既に明ら

かであるが、更に一つこの資料の價値を高めるものとして、その中にみられる字句の改削の跡が擧げられる。それら改削の前後を對照してみると、松齡の「殫精竭慮」といわれる執筆狀態の一端が、實によくうかがえる。例えば「續黃粱」の冒頭の部分は、はじめ次のように書かれた（原文改削箇處後掲）。

『福建の曾孝廉がみごとに禮部の試驗に合格して、まだ歸鄉しなかつた時のことである。二三の新合格者たちと共に郊外に遊びにゆき、ふと毘盧寺に白衣の占者が一人泊つていることを耳にして、駒を並べて占つてもらいにいつた。入室し一禮して坐ると、占者はその樣子をながめて言つた。

「先生はこのたび合格の御祝宴をなされて、意氣まことに揚々としておられるが、都の綺麗どころは御覽ずみでしようかな？」

曾は扇を動かして微笑した。占者が年をたずねた。曾は笑つて言つた、

「それはすんだよ。ところで一體何の官になるかね？」

占者はじつと考え込んだ。曾はまた笑つて、

「高官になる天分がないのかね？」

占者は言つた。

「十年すれば、勞せずしておなりになれますぞ！」

曾は思つてもみなかつたこの返事をよろこんだが、ややひかえめにしていた。と占者は、形を正して、

「わしがでたらめを言うなどとお思いなさるな！　きつと眞の宰相におなりになられまするぞ！」と言つた。曾はたいそうよろこんだ。』

右の傍點の箇處が改削されて、次のような通行本にみられる形に改められた。

『福建の曾孝廉がみごとに禮部の試驗に合格した時のことである。二三の新合格者たちと共に郊外に遊びにゆき、ふと毘盧寺に占者が一人泊つていることを耳にして、駒を並べて占つてもらいにいつた。入室し一禮して坐ると、占者はその意氣ごみを見てお世辭を言うので、曾は扇を動かして微笑しながら、高官になる天分があるかないかをたずねた。すると占者は形を正して眞の宰相だと保證した。

曾は大よろこびで、氣位が益々高くなつた。』

すなわち、松齡は最初の曾と占者との會話のやりとりの箇處を特に普通の敍述文に改めている。右の部分は「續黃粱」という物語の入口に當り、この後から、主人公が假睡の中に人生の榮耀榮華と應報の酷苦を經驗する本筋になり、唐代小說「枕中記」と同工異曲の物語である。隨つて、はじめに書かれた對話體が、原文では「新燒龍尾」「長安花看盡否」等の典據のある語句を使つたり、あるいは「十年可坐致耳」と「二十年太平宰相可保」とを相對して使つている等、相當技巧を凝したものと言えるが、この物語全體からみると、改削後の方が全體としては遙かに引き緊つたものになつている。この例のように會話の箇處を普通の敍述體に改めた迹は、この稿本中にかなりにみられ、特に注目される點である。その他改削の全般を通じてみても、できるだけ簡潔でしかも適切な表現をしようとする松齡の文學的な執筆態度がうかがわれる。從來とかく政治的にのみ扱われやすかつたその眞の執筆態度の一端を物語るものである。趙景樵氏も前記論文中に選印本によつて改削の前後の對照を示したが、筆者は稿本中の改削の全體を仔細に調査して、極めて零細な改削で、それが大して重要な役割をしていないと考えられるものは紙數の關係でこれを省き、それ以外はすべてここに列擧して、今後の研究の便を計つて置きたいと思う。上欄に改削前の形を擧げその改削の箇處に傍線を附し、下欄にその改削狀態を說明しておく。なお末尾に改題の全部を附記した。

改削前	改削說明	改削前	改削說明
莪中怪		◦一日合家惶遽似有急難一日舉宇倉卒	◦削四字
◦翁命多設弓弩俟其來遙射之	◦削四字	謂壻曰…	
斫蟒		王成	
◦視兄則鼻耳俱化惟孔存焉奄將氣盡	◦削四字	◦出金相示一門相慶	◦削五字
雹神		嬰寧	
◦一聲向北飛去公駭曰屋宇震動	◦削三字	◦母憂之①道巫醮禳②病益劇、肌革精神朝夕銳減	◦削①二字、②一字、③四字
新郎			

。審視之卽上①元日途中
。入告媼①媼喜曰請偕女同歸

張老相公

。男子以大鉾擧投之、①少時元龜②〔一字不明〕死躍出

水莽草

。①②生藏指環③乃別而去

雷曹

。我少微星也困先君失一德促余壽齡君之惠好在中不忘

青梅

。女失色①曰此前世寃家勾牒至矣、尼啓扉果②公子家奴、驟問所謀、尼紿之曰、消息大好、初語之詞意生硬賴、我磨爛三寸舌、始說得石姑姑略一貶眡、告公子忽急、三兩日管有佳夢作也奴④曰公子言、事若⑤無事敎汝自復命、尼唯々敬應謝令去

公孫九娘

。甥曰、九娘棲霞公孫氏阿爹故家子。

。削二字
。①改作「且」
。削①二字、②二字
。①②之間加「求茶葉一撮並」六字、削③二字
。削十字
。①改作「意必貴家奴」②改作「然」、③改作「廿語承迎、但請緩以三」、④改作「述主」、⑤改作「成、俾尼」
。改作「此」

。至一第宅、朱以指彈扉庫官
。二萬二千五伯金、①張曰方在行旅多金②恐致累綴③勞暫典字北歸時④可便盤驗⑤耳

龍無目

。是日沂水大雨

狐諧

。稅居逆旅、夜有女子來奔顏色頗麗
。女囑曰勿以他人共我必來、萬乃獨居、狐日至
。固請見且嘲之謂得听佳音、魂魄飛越
。我輩留宿、宜勿去、①定阻②他狐于陽臺
。①孫嫂馬曰小狐子盡此矣、頗快意否、狐笑曰、典尙未盡、恐足〔二字不明〕顧聞、棄知將以〔一字不明〕戲咸請之、孫又掩耳去、我〔三字不明〕聞我不聞棄又以爲、請狐方欲〔一字不明〕孫遽曰、旣欲洩狐子、氣必以狐〔二字不明〕可狐〔一字不明〕思〔一字不明〕曰一痴兒至〔六字不明〕狐卽〔三字不明〕曰狐也、

。削三字
。①改作「公慮」、削②二字、③五字、④二字、⑤一字
。削二字
。改作「奔女」
。改作「勿與客共、淫」
。削①二字、②改作「嬌」
。削①一字、②改作「其」
。①改作「二客陳氏兄弟、一名所見、一名所聞、見孫大窘、乃曰、雄狐何在、而縱雌流毒如此、狐曰適一典、談猶未終、淫爲輩吠所亂、請終之、

兒欲〔二字不明〕觀〔一字不明〕爲狐噬〔二字不明〕徬徨、岳曰此〔二字不明〕視〔一字不明〕玩〔一字不明〕釋〔二字不明〕携去飼之、岳紿之曰〔二字不明〕死、不〔一字不明〕飼〔二字不明〕當以生者〔一字不明〕贈兒臨別堅〔一字不明〕狐〔二字不明〕以〔三字不明〕獨〔三十一字不明〕舉座大笑②孫素能言、至此頓屈、乃曰、吾不敢與娘對談壘矣、從今之後有開謔端、罰作東道主

。居數月、①謂萬②事且了、可以治裝偕歸

。萬詢其處、指言前此不遠

妾擊賊

。由是善顏視妾遇之反如嫡、然妾終無

。鞭撻橫施不以時不以事也

姊妾易嫁

。其次女在側、頗非其姊、貧富惟天所授、今日貧賤、烏知後日不富貴乎、姊而若此是徒傷者父心、終不然因爾哭鳴々謝毛郎去耶

續黃粱

。福建曾孝廉高捷南宮、未便旋里時與國王見使臣乘一騾、甚異之、使臣告曰此馬之所生、又大異之、使臣曰、中國馬生騾、騾生駒々、王問其狀、使臣曰、馬生騾、騾生駒々、乃臣所聞」②改作「衆知不敵乃相約」

。①改作「與」、削②七字

。削二字

。削六字

。削七字

。改作「苦逼勸之」

。削四字

二三新貴

。寓一白衣星者

。星者望之、曰先生新燒龍尾意頗揚々、長安花看盡否

。曾搖箑微笑、星者詢庚甲曾笑曰看終作何官、星者方凝思、曾又笑問曰、是寧無蟒玉分耶

。星者①曰十年可坐致耳曾慶慰出于非望、稍致撝挹、星者正客②曰勿以老夫言虛戲誕二十年太平宰相③可保曾大悅

。衆一舉①首登榻自話、群以宰相相②戲賀曾心氣殊高、③便指同遊曰…

。曾得意①榮寵、亦烏知其非有也疾趨入朝、天子前席②而問曰、臣庶勞卿襄理、調衷非易、曾唯諾無以對休命、天子又曰、進賢退不肖、大臣之責、有所黜陟、③三品以下、④任卿胸臆、不必奏聞、即命賜蟒服一襲、玉帶一圍、名馬二匹、曾被服稽拜以出⑤乘馬探鞭、殆如翔翥

。日事聲歌、翠圍珠繞盡情嘲笑

。聲勢赫濯、累足以迹

。削二字

。改作「見其意氣、稍佞諛之」

。改作「便問有蟒玉分否」

。削①、②改作「許」更「大悅」之後加「氣益高」削③

。削①②③各一字

。削①、②改作「溫語良久」③之加「命」、④改作「聽其黜陟、即賜蟒玉名馬」。削⑤

。削八字

。改作「接第連阡者、

。今①而後或可②以適③我志④矣

。然①揣其意各恐爲立仗馬曾亦高情盛氣不以置懷②抱間有龍圖學士包③拯上疏、

。含憤不敢言、①一人執鎖鑰封誌樓閣倉②③④庫已立叱曾出、監者牽⑤頸羅曳之⑥、乃携妻、吞聲就道、求一下駟劣車、少作代步亦不得⑦、回顧廝僕遁去無存夫妻零涕而行十里外妻足弱欲傾跌、曾時以一手相攀引、又十餘里、已亦⑧困憊不能去、

。他無索耴、即有收人擁姜狎昵嘲戲無不至

。萬鬼群和聲①怒、雷霆②竟以巨③抓摔至墀下

。鼎足盡紅、油星崩射爆然作響

。一巨鬼以左手抓髮

。呼號痛楚之聲

。更①相以杓灌其口、流②于頤

。入于喉則…

皆畏勢獻沃產、自此富可埒國」

。①三字改作「日幸」二字、削②③④

。削①②③

。①改作「俄」一字、②③之間加「並」字③④之間加「封誌」二字。削⑤、⑥改作「而出、夫妻」削⑦⑧

。削十三字

。①改作「如」②改作「即有」③改作「鬼」

。削八字

。削二字

。削二字

。削①②各一字

。削一字

。女行數行見架上鐵梁

小獵犬

。皆下獻飛獻走、紛集盈側衙登蜂衙亦不知作何語

。惟①②遺一細犬、③徊徨墻腰磚線上

辛十四娘

。廣平馮生①、②少輕脫縱酒③年二十餘益再鼓、偶有事於姻家、味爽④而行

。主人胡①盧而笑顧付左右、②③少間有與辛耳語辛起曰、客小耐坐、④即復來、遂索幕入

。辛乃坐①②嗢噱

。未審者人意旨

。聞房內嚶々膩語、依稀有一紅衣人在

。果有①女子衣淡紅者振袖傾鬟②娟々都雅

。有中年婦出、問客姓氏

。紅袖低垂、嫋如烟柳、嫗理其鬢髮

。付生①曰生收之、歸家檢曆②生但有嫁娶良辰③新人便到耳乃使青衣

。改作「步」

。削四字

。①②之間加「壁磚上」三字、削③

。①②之間加「正德間人」四字、削③、④改作「偶」

。削①、削②③

。①②之間加「與」

。削二字

。削八字

。①改作「紅衣人」、②改作「亭々拈帶」

。改作「婦人出」

。削自「嫋」以下四字

。削①②。③改作「爲定」

①中心②怔營、③惟恐鬼約難恃

。殿宇荒涼、①無復人面問之居人②往寺中

。①〔一字不明〕念佳人③若得狐婦亦佳至日除舍

掃途④翹足凝待、更僕眺望

。夜半猶寂、生輾轉不能夕中心若弔

。息肩置堂、①頰中生喜得麗偶②如涸鮒之

得甘霖不疑其異類

。二青衣持貝錦爲賀問之不答

。少與生共筆硯、相狎擾

。且獻新什生①嗤々笑②且讀之公子大慙不

懂

。一座①〔一字不明〕胎公子慚忿氣結、②不能言

。如欲我留、當從今閉戶

。勿浪飲、郊郭生謹受教

。公子使圉人挽轡擁捽

。公子出驗之、怒曰我待爾不薄、何

遂逼奸殺婢子、生百口無以、自明、

乃嘆曰悔不聽妻言、以至于此、執送

廣平

。女曰、自貽伊戚、復怨阿誰、今日網

羅張滿、陷穽深投、只合誣服、或有

生時、徒受摧殘、亦復何益

。撫愛異于群少、自生被收用度益繁年

餘漸不自給主婢食貧然囹圄資斧未嘗

一日、缺、生認悞殺、擬絞

。殊落々置度外

。蒼頭聞而大喜告主母

。生愕問故、①婢曰、初奉小姐命赴燕都、

欲達宮闈、爲②官人陳寃、③抑不意宮中

④都有神明守護、徘徊御溝間、數月不

得入、⑤我惶恐懼悞、方欲歸葉、忽聞

⑥今上將幸大同、⑦婢子乃預往、僞作流

妓、上至枸欄、⑧妾蒙寵眷、⑤顧謂我不

似風塵人、⑩我乃垂泣

。上問有何寃苦、①婢子對、妾原籍隸廣

平、生員馮某之女、父以寃獄將死、

遂鬻妾枸欄中、上慘然賜我金百兩、

臨行細問顚末、以紙筆記姓名、且言

欲②與婢子共富貴、③我言但得父子團聚、

不願華膴也、上頷之、④乃去、⑤生急拜

。三十五字改作「知陷

阱已深、勸令誣服、

以免刑憲」

。削二十八字

。十八字

。改作「之」

。削二字

。①改作「先是女遣婢」

②改作「生」、③改作

「婢至則」、削④一字

⑤改作「婢」、⑥改作

「天子」、削⑦一字⑧

改作「極」、⑨改作「疑

婢」、⑩改作「婢」

。削①一字、②二字、

③改作「婢」、④⑤之

間加「婢以此情告生」

六字、削⑥一字

。削①一字、②二字、

③一字

。削①四字、②改作

「則」改「往」作「則」

。①改作「陰」、削②、

③改作「若得狐婦」、

削④

。改作「已無望」

。①改作「隅」、削②加

「並」

。削四字

。削一字

。①改作「評涉嘲」、削

②

。①改作「失色」、削②

。改作「與君約」

。削二字

。改作「之」

。二十九字改作「誣生

逼奸殺婢」

⑥履側

。生聞大驚泣伏不起

。家益落、朝不謀夕暇則對影長愁

。撲而碎之、①阿賭物傾注而出、②百千且溢、③夫婦狂、喜資亦御穷、頓大充裕

。削二字

。六字改作「夫妻無計」四字

。①改作「金錢溢出」、削②四字、③改作「由此」二字

蹇償債

公忻然曰爾能苦作生計大好事、立命授之

。忽夢①卓來、②公問之、對曰

。削十字

。①改作「某」、削②四字

。直與公①子剖分之、②公已③視馬視爲癈物、遂如所請、後數月牛③醫忽來曰、駒已售得錢千八百⑤敬以半獻公⑥〔一字不明〕

。削①②各一字③七字、④六字、⑤⑥各一字

頭滾

。蘇孝廉大貞下大封公

。削二字

鬼作筵

。已告妻所往妻曰爾自去我家中有兒輩可以炤顧杜冠服欲出

。削十六字

。既爲吾父①不勝他人也何乃歸家②識崇兒婦

。削①五字、②一字

。言已曰盡此早去妻即冥然良久乃甦

。削六字

胡四相公

。往謁冀一謀狐狸面投刺

。五字改作「見之」二字

。張招之且仰首望空中

。削三字

。祇好攫得兩頭鷄晒

。削三字

念秧

。女子臥地哭①亦哀、秀才②謂主人③曰此女即歸懷二心矣不如以重價貨吳生

。削①②各一字、③十一字

。驚問其故①報兒曰鬼頭知②夫人止一兒

。①改作「蓋」一字、②改作「女」一字

蛙曲

。如擁雲鑼之樂、宮商詞曲、了々可辨

。削二字

濟南道人

。驟抱其①衣、②脅之③曰不傳我術我將以衣去、使爾動撣不得道人拚④之曰、

。①②之間加「以」一字、削③十六字④一字

。從此道人日往來

。削三字

酒狂

。客與語①之②、使③酒罵坐忤客

。①②之間加「悅」字、②③之間加「遂共酣飲繆醉」六字

。撫之奄然氣盡、家人盡愕、移時至一

。四字改作「繆死、有

府署

。或①亦無大罪②過、忽堂上一吏宣言③曰訟獄者④暫復去⑤翼日早祇候⑥如是三言、于是堂下人紛々藉々

。便有用度搖拾得再支吾老

。賈①乃問②曰舍甥何事

。望必合極力、繆起揮涕立、適飲者、乃東靈使者

。繆謝曰、煩舅百慮、倘就安妥、必當竭力補償、賈諾之

。棘垣峻絕、門畫犴狴似是囹圄

。繆素厭人道其酒德、聞復爾耶益憤擊

。汗濕裀褥、氣味薰蒸與吐物無別、身始涼爽

趙城虎

。又憐其老、不忍加威、怒遂①紿之曰爾歸我便捉、虎償②殺人罪匍伏不去

。即判捉虎問諸役誰能往者

。隸窘甚告曰、果欲捉虎、便須拘集獵戶、藐茲一身、何能探虎穴、宰即判獵戶催比

鴉頭

皁帽人去縶」八字

。削①②各一字、④三字、⑤一字、⑥四字又③改作「使」

。削三字

。削①②各一字

。削四字

。十六字改作「鋭然自任」四字

。削四字

。改作「翁言」二字

。削九字

。①改作「諾爲」、削②四字

。削三字

。二十六字改作「請牒拘獵戶、宰從之」八字

。趙曳①〔一字不明〕之、②王固拒之、趙隔窓呼③曰妮子④〔一字不明〕去⑤〔六字不明〕

伍秋月

。〔異〕即稍苛①不②可謂虐此③爲嘉禾除螟特也至冥中無爰法

神女

。備歷械梏、以諸未獲、姑存疑案

。因挽其袪①强抑搔之、女怒曰子誠②人面而獸面者也

湖裙

。見①堂舍亦復②完好

。亦遂信之

。謂仲曰我①將先②往矣

晚霞

。爽然自悟私告母曰然恐晚霞長亭

。削①③④各一字、⑤六字、②改作「又」。

。①②之間加「之」、③九字改作「況」一字、④⑤之間加「原」

。四字改作「罪無申證頌繫之」七字

。①改作「隱」、②六字改作「敝人」

。①改作「廬落」、②改作「整頓」

。三字改作「信爲伯遺體」五字

。削①一字、②改作「驅狐狸于地下可乎」八字

。削四字

。年十四五許、支綴於牀〔二字不明〕若寐近臨之　。四字改作「形容已稿」

阿纖

。訴其狐苦〔一字不明〕失〔一字不明〕　。三字改作「棲愴悲懷」

仇大娘

。趙急以帛束其項憐其色、猶昇　。削三字

曹操塚

。許城外有河水洶湧近崖中傾注而去出窺之深暗　。削八字

〔附〕改題

。鬼媒狐嫁→辛十四娘

。虎　子→趙城虎

。槍　棒　妾→妾擊賊

。秀　才→驅怪

。李　公→捉鬼射狐

。蹇　償　債→又（李公）

。徐　繼　長→蕭七

。跪　香　女→雲翠仙

。拳　勇→武技